

## 第9章 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人と他項目との関連

### 1 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人について

#### (1) 単純集計

【(問6) 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】は、12個の選択肢からなる多肢選択形式の質問である。単純集計結果を、選択者数の多い順に並べ替えて示すと以下のような結果になる。

#### ■「中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人」(問6)の単純集計

※設問及び選択肢については、P.16を参照する。

	総度数	有効度数	NA	選択度数	比率1	比率2
10. SC	1604	1564	40	546	34.0%	34.9%
9. 教師	1604	1564	40	473	29.5%	30.2%
5. 病院	1604	1564	40	386	24.1%	24.7%
8. 養教	1604	1564	40	378	23.6%	24.2%
12. なし	1604	1564	40	361	22.5%	23.1%
1. 適指	1604	1564	40	316	19.7%	20.2%
6. FS	1604	1564	40	141	8.8%	9.0%
7. 民間	1604	1564	40	126	7.9%	8.1%
11. その他	1604	1564	40	111	6.9%	7.1%
2. 相談	1604	1564	40	91	5.7%	5.8%
3. 児相	1604	1564	40	83	5.2%	5.3%
4. 保健	1604	1564	40	19	1.2%	1.2%

選択項目「12. なし」を除いた11個の選択項目中、最も選択者数が多いのは「10. SC」、以下「9. 教師」、「5. 病院」、「8. 養教」、「1. 適指」の5施設の利用状況は約20%超となっており、「6. FS」、「7. 民間」、「11. その他」、「2. 相談」、「3. 児相」、「4. 保健」の6施設・相談機関施設・相談機関の利用状況が10%未満でその利用者数は少ない。選択率が20%を超えている5施設・相談機関施設・相談機関のいずれかを利用したと答えている回答者の数は1075人で、これは無回答を除いた全有効回答者数(1564人)の68.7%に当たり、また「12. なし」と回答した者を除いた回答者(すなわち、何らかの施設・相談機関施設・相談機関を一つ以上利用した者)1203人のうちの89.4%に当たる。何らかの施設・相談機関施設・相談機関を利用した回答者のうちの90%弱がこの5施設・相談機関のいずれかを利用しており、このことから、この5施設・相談機関が中学校3年生時の不登校経験者の主要な支援施設であることが分かる。

(2) 施設・相談機関の複数利用について

次の表は回答者の問6における選択数の分布を示したものである。選択数が0 (n=0) の度数は「12. 何も利用しなかった」という項目を選択した回答者の数である。

■利用した施設・相談機関数の選択数

施設・相談機関数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	<NA>
人数	361	460	341	209	119	41	19	8	4	2	40

選択項目「12. なし」を除いた11個の選択項目の選択総数は2670で、1個以上の項目を選択した人数は1203人、そのうちの734人(61%)の回答者は二つ以上の項目(施設・相談機関)を選択(利用)している。一人当たり1.6個の施設・相談機関を利用していることになる。

標準化残差の大きい順に、その組合せを見てみると、次のようになる。

■標準化残差の大きい順の組合せ

※設問及び選択肢については、P. 16を参照する。

組合せ	P 値	標準化残差	度数	観察数	期待値
6 9. 教師 8. 養教	0.0	12.7	1564	213	114.3
7 10. SC 8. 養教	0.0	10.3	1564	215	132.0
8 10. SC 9. 教師	0.0	8.5	1564	239	165.1
3 8. 養教 5. 病院	0.0	6.8	1564	143	93.3
4 9. 教師 5. 病院	0.0	4.9	1564	155	116.7
5 10. SC 5. 病院	0.0	4.6	1564	172	134.8
2 10. SC 1. 適指	0.005	2.9	1564	132	110.3
1 5. 病院 1. 適指	0.007	2.8	1564	97	78.0

上の表から、回答者の「中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人」の中心に位置しているのは「8. 養教」「9. 教師」「10. SC」の学校内の施設・相談機関であることが分かる。

次の表は、同様に利用者数が比較的多い二つの施設・相談機関(「1. 教育支援センター」と「5. 病院・診療所」と学校内の施設・相談機関との同時利用の状況を示したものである。

■利用者数が比較的多い二つの施設・相談機関（「1. 適指」と「5. 病院」）と支援施設との同時利用の状況とのクロス集計

（上段…観測数、中段…P 値、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 16 を参照する。

	8. 養教	9. 教師	10. SC
1. 適指	82	106	132
	0.451	0.173	0.005
	0.9	1.4	2.9
5. 病院	143	155	172
	0.0	0.0	0.0
	<b>6.8</b>	<b>4.9</b>	<b>4.6</b>

ここから、「1. 適指」や「5. 病院」の利用と学校内の施設・相談機関の利用との間にはおおむね正の相関関係があることが分かる。とりわけ、「5. 病院」を利用している回答者による学校内の施設・相談機関の同時利用率はかなり高い。

「5. 病院」を利用している回答者 386 人中、「8. 養教」を同時に利用している者は 143 人（37.0%）、「9. 教師」を同時に利用している者は 155 人（40.2%）、「10. SC」を同時に利用しているものは 172 人（44.6%）となっている。

以上から、中学校 3 年生時に不登校であった生徒たちが利用した支援施設の中心は、学区の内部に制度化されている制度や相談者であり、それに加えて学校外の「病院」や「適指」といった公的機関が利用されてきた、ということが明らかになっている。

## 2 不登校の継続理由・不登校の態様との関連（問 5）

以下の集計表は、【（問 5）不登校の継続理由】と、【（問 6）中学校 3 年生時に利用した施設・相談した人】との関係を見たものである。問 5 と問 6 は共にマルチプルアンサー形式の質問であり、問 5 と問 6 の全ての選択項目に対する回答（0 : No、1 : Yes の 2 値データ）の組合せから全部で 180 個のクロス集計表が計算されるが、表中の数値は、これら 180 個のクロス表から求めた調整済み標準化残差の値を示したものである。この値の絶対値が 1.96 以上であれば 2% の有意水準で、当該 2 項目間に相関関係（プラスの場合は正の相関関係、マイナスの場合は負の相関関係）があることを示している。以下の表では、この残差が 2 以上の箇所（有意な正の相関が認められる箇所）を斜体下線で表示している。

■中学校3年生時において「不登校が続く理由」を聞いた（問5）への回答と、「中3時の施設の利用状況・相談した人」とのクロス集計から求めた標準化残差値  
 ※設問及び選択肢については、P.13、16を参照する。

		問6											
		1 適指	2 相談	3 児相	4 保健	5 病院	6 FS	7 民間	8 養教	9 教師	10 SC	11 その他	12 なし
問5	1 友人	<u>4.1</u>	<u>2.4</u>	0.9	1.0	<u>2.8</u>	0.7	1.6	<u>4.3</u>	1.4	<u>3.1</u>	1.6	-6.9
	2 先生	1.1	0.9	0.7	1.2	1.3	-0.2	1.8	0.3	-5.2	-1.7	<u>2.3</u>	0.6
	3 非行	-3.9	1.2	1.5	-1.4	-3.7	-1.9	-3.0	-1.0	-1.6	-3.5	-1.6	<u>5.4</u>
	4 無気力	-3.1	-0.3	0.6	0.3	-1.6	0.2	-1.5	-1.7	0.0	-1.5	-2.0	<u>3.5</u>
	5 悪意	-0.4	0.3	1.4	1.2	-3.3	-0.5	-1.2	-2.1	-1.9	-3.5	-1.6	<u>4.6</u>
	6 受動的	-0.9	0.1	0.2	1.8	1.6	1.8	-0.3	<u>3.2</u>	0.3	<u>3.3</u>	-0.6	-0.7
	7 不安	<u>2.3</u>	<u>2.8</u>	0.9	1.2	<u>8.7</u>	1.2	<u>6.1</u>	<u>7.7</u>	<u>3.4</u>	<u>6.4</u>	0.8	-8.5
	8 無理解	0.2	-1.9	-0.4	0.1	-2.2	2.0	-2.8	-1.9	-1.9	-1.6	-2.2	<u>4.0</u>
	9 注意不足	0.4	-0.4	0.3	-1.2	0.2	-0.4	0.3	-1.9	-1.3	-2.3	0.7	<u>3.3</u>
	10 生活	-1.4	0.7	1.8	0.3	<u>2.2</u>	-0.2	1.9	<u>2.1</u>	1.1	0.3	-1.1	<u>2.0</u>
	11 勉強	<u>2.7</u>	1.7	1.7	<u>2.5</u>	0.6	1.7	0.1	0.8	0.2	2.1	-0.9	-2.0
	12 支援不足	0.8	1.9	<u>2.3</u>	<u>2.3</u>	-0.2	0.3	0.1	-2.7	-2.6	-1.8	<u>3.2</u>	1.5
	13 助言	<u>3.6</u>	1.6	0.4	-0.5	<u>5.6</u>	<u>2.6</u>	<u>3.4</u>	<u>2.2</u>	1.8	0.2	1.6	-2.6
	14 その他	0.4	0.3	0.4	0.2	1.8	-0.9	0.5	0.0	-1.2	-1.2	<u>7.4</u>	-1.6
	15 不明	0.2	-0.5	-1.0	-0.8	-3.0	-1.6	-1.5	-1.5	-0.1	-0.1	-1.4	1.1

上記の残差表から、【（問5）不登校の継続理由】と【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】の間には多くの相関関係があることが分かる。

まず、回答者がおよそ何種類の施設・相談機関を利用したのかということを見る。

次の表は、回答者の利用した施設・相談機関の数の分布を示したものであり（全回答者の平均値は1.71）、後の表は、不登校の継続理由別にその利用した施設・相談機関数の平均値を示したものである。

■利用施設・相談機関の数の分布

利用した施設・相談機関の数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	361	460	341	209	119	41	19	8	4	2



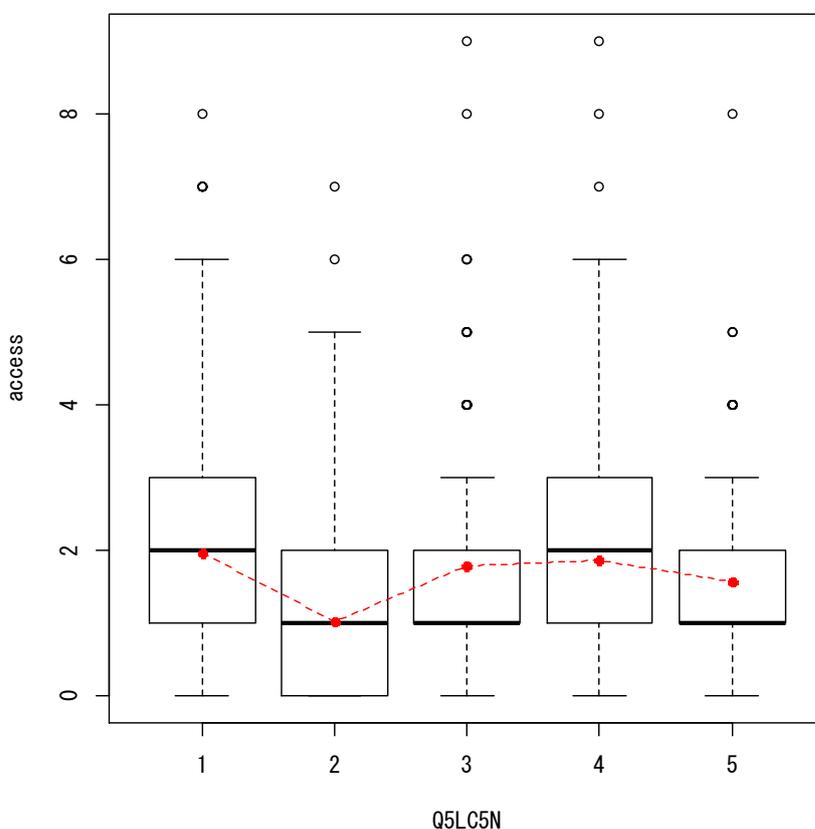
「12. 支援不足」 → 「11. その他」 「3. 児相」 「4. 保健」  
 「13. 助言」 → 「5. 病院」 「1. 適指」 「7. 民間」 「6. FS」 「8. 養教」

特に注目すべきは、【（問5）不登校の継続理由】で「3. 非行」「4. 無気力」「5. 悪意無し」「8. 無理解」「9. 注意不足」と回答した者は、【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】で「12. なし」を回答した比率が有意に高く、これらの者は、その他の施設・相談機関の利用比率は高くない。また、【（問5）不登校の継続理由】で「1. 友人」や「7. 不安」と回答した者は、【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】で多くの施設・相談機関を利用した比率が有意に高くなっている。

以上のことから、問5と問6との関連では、不登校の継続理由の違いに応じて、その利用している施設・相談機関にかなりの違いがあるということが分かる。

このことを確かめるために、次に、「不登校の5類型」別に、利用した施設・相談機関数について分析する。下の boxplot 図は、利用した施設・相談機関施設・相談機関数を、「不登校の5類型」別に示したものである。同時に、平均値の多重比較の検定結果も併せて示している。なお、「不登校の5類型」は「1. 無気力」型「2. 遊び・非行」型、「3. 人間関係」型、「4. 複合」型、「5. その他」型である（「不登校の5類型」については、P. 65「不登校の類型化について」参照）。この図から、「2. あそび・非行」型においては、利用した施設・相談機関数（変数 access）の平均値（1.03）が有意に低い。平均値の多重比較の検定結果からも、「2. 遊び・非行」型の平均値は他の四つの不登校類型と比較して低くなっている。一方、その他の四つの不登校類型の間には、有意な平均値の差はない。

access by Q5LC5N



### 3 中学校3年生時の支援に対するニーズとの関連

■【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問7）中学校3年生時の支援に対するニーズ】のクロス分析（上段…観察数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 16、17を参照する。

問6	中学校3年生時の支援のニーズ（問7）									
	1 進学	2 仕事	3 勉強	4 技能	5 表現	6 居場所	7 悩み	8 生活	9 その他	10 なし
1 適指	98	42	106	78	125	102	123	36	15	78
	<u>4.0</u>	1.1	<u>4.0</u>	1.6	<u>3.5</u>	<u>3.3</u>	<u>2.6</u>	1.5	-0.4	-3.2
2 相談	25	9	29	22	43	35	39	20	8	20
	1.2	-0.5	1.6	0.7	<u>3.5</u>	<u>3.1</u>	<u>2.2</u>	<u>4.4</u>	1.6	-2.1
3 児相	22	12	23	24	32	26	34	14	6	21
	0.9	0.9	0.7	1.8	1.5	1.4	1.7	<u>2.5</u>	0.9	-1.3
4 保健	5	5	5	8	8	7	8	6	2	5
	0.4	<u>2.0</u>	0.1	<u>2.2</u>	1.0	1.2	0.8	<u>3.4</u>	1.0	-0.6
5 病院	113	34	116	97	151	129	165	50	25	83
	<u>3.6</u>	-1.9	<u>2.7</u>	<u>2.0</u>	<u>3.8</u>	<u>4.4</u>	<u>4.8</u>	<u>2.9</u>	1.3	-5.3
6 FS	46	14	40	43	56	49	59	16	5	29
	<u>3.0</u>	-0.6	1.0	<u>2.8</u>	<u>2.3</u>	<u>2.8</u>	<u>2.4</u>	0.9	-0.9	-3.1
7 民間	43	7	43	32	54	43	60	20	6	27
	<u>3.1</u>	-2.2	<u>2.4</u>	1.1	<u>2.8</u>	<u>2.4</u>	<u>3.6</u>	<u>2.7</u>	-0.3	-2.8
8 養教	110	42	125	87	157	121	164	48	17	71
	<u>3.5</u>	-0.2	<u>4.3</u>	1.0	<u>5.0</u>	<u>3.7</u>	<u>5.2</u>	<u>2.8</u>	-0.7	-6.4
9 教師	130	53	131	106	183	126	178	54	23	112
	<u>3.1</u>	-0.2	1.8	0.7	<u>4.3</u>	1.1	<u>2.8</u>	<u>2.1</u>	-0.4	-4.7
10 SC	157	60	174	122	203	163	224	59	30	126
	<u>4.3</u>	-0.4	<u>4.7</u>	0.7	<u>3.7</u>	<u>3.3</u>	<u>5.2</u>	1.7	0.4	-5.7
11 その他	26	20	30	26	35	25	46	8	13	32
	0.4	<u>2.4</u>	0.8	0.7	0.3	-0.4	2.3	-0.6	<u>3.3</u>	-0.6
12 なし	51	44	56	68	70	57	65	22	17	192
	-4.5	0.4	-4.8	-1.4	-5.7	-4.7	-6.9	-2.3	-0.5	<u>9.6</u>

【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問7）中学校3年生時の支援に対するニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に示せば以下のとおりである。

【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】→【（問7）中学校3年生時の支援に対するニーズ】

- 「1. 適指」 → 「1. 進学」 「3. 勉強」 「5. 表現」 「6. 居場所」 「7. 悩み」
- 「2. 相談」 → 「8. 生活」 「5. 表現」 「6. 居場所」 「7. 悩み」
- 「3. 児相」 → 「8. 生活」
- 「4. 保健」 → 「8. 生活」 「4. 技能」 「2. 仕事」
- 「5. 病院」 → 「7. 悩み」 「6. 居場所」 「5. 表現」 「1. 進学」 「8. 生活」 「3. 勉強」 「4. 技能」
- 「6. FS」 → 「1. 進学」 「4. 技能」 「6. 居場所」 「7. 悩み」 「5. 表現」
- 「7. 民間」 → 「7. 悩み」 「1. 進学」 「5. 表現」 「8. 生活」 「3. 勉強」 「6. 居場所」
- 「8. 養教」 → 「7. 悩み」 「5. 表現」 「3. 勉強」 「6. 居場所」 「1. 進学」 「8. 生活」
- 「9. 教師」 → 「5. 表現」 「1. 進学」 「7. 悩み」 「8. 生活」
- 「10. SC」 → 「7. 悩み」 「3. 勉強」 「1. 進学」 「5. 表現」 「6. 居場所」
- 「11. その他」 → 「2. 仕事」 「9. その他」
- 「12. なし」 → 「10. なし」

といった相関が見られた。

中学校3年生時の支援ニーズは、心の悩み、人間関係構築のための表現力、生活習慣の指導、仲間を求めての居場所、進学相談や勉強の相談など多岐に渡っているが、それぞれの支援ニーズに応じた施設・相談機関を選択しており、また、施設・相談機関は複数の支援のニーズにも対応していることがうかがえる。

#### 4 中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとの関連

##### （1）中学校3年生時の休んでいた時の気持ち（問8a）

■【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】と【（問8）中学校3年生時の休んでいた時の気持ち】のうち【（a）特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった】と回答した人とのクロス分析（上段…観察数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 16を参照する。

問6	特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった（問8a）			
	1. そう思う	2. 少しそう思う	3. そう思わない	P値
1. 適指	66	82	160	
	-1.8	0.0	1.6	0.16
2. 相談	20	18	49	
	-0.5	-1.3	1.6	0.25
3. 児相	20	21	39	
	-0.1	-0.1	0.1	0.99
4. 保健	4	3	12	
	-0.4	-1.1	1.3	0.39
5. 病院	60	73	246	
	-4.9	-3.7	<u>7.6</u>	<u>0.0</u>

6. F S	32	33	74	
	-0.7	-0.8	1.3	0.43
7. 民間	22	27	75	
	-2.0	-1.3	<u>2.9</u>	0.01
8 養教	71	77	223	
	-3.2	-2.9	<u>5.4</u>	<u>0.0</u>
9. 教師	87	120	254	
	-3.9	-0.3	<u>3.6</u>	<u>0.0</u>
10. SC	97	123	315	
	-4.8	-2.3	<u>6.2</u>	<u>0.0</u>
11. その他	25	22	61	
	-0.6	-1.5	1.8	0.16
12. なし	147	98	111	
	<u>7.9</u>	0.5	-7.3	<u>0.0</u>

(問8)の「中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとして、特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった」という質問に「3. そう思わない」と回答した人は、(問6)の「中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人」との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「5. 病院」「10. SC」「8. 養教」「9. 教師」「7. 民間」であり、(問8)の「中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとして、特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった」という質問に「1. そう思う」と回答した人は、(問6)「中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人」との関連について、有意な差が生じている選択項目は「12. なし」である。

## (2) 中学校3年生時の休んでいた時の気持ち (問8b)

- 【(問6) 中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【(問8) 中学校3年生時の休んでいた時の気持ち】のうち【(b) 自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった】と回答した人とのクロス集計(上段…観察数、下段…標準化残差)

※設問及び選択肢については、P. 16を参照する。

問6	自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった (問8b)			
	1. そう思う	2. 少しそう思う	3. そう思わない	P 値
1. 適指	97	132	78	
	<u>3.4</u>	1.7	-4.7	<u>0.0</u>
2. 相談	18	40	30	
	-0.9	1.3	-0.6	0.41
3. 児相	20	31	30	
	0.1	-0.1	0.0	0.99
4. 保健	6	7	6	
	0.8	-0.2	-0.5	0.74

5. 病院	109	151	118	
	<u>2.4</u>	0.5	-2.6	0.01
6. FS	38	59	41	
	0.9	1.0	-1.8	0.19
7. 民間	26	53	44	
	-0.8	1.0	-0.3	0.55
8. 養教	96	145	127	
	0.9	0.2	-1.1	0.49
9. 教師	122	178	161	
	1.3	-0.1	-1.0	0.36
10. SC	144	228	163	
	1.8	<u>2.2</u>	-3.8	<u>0.001</u>
11. その他	21	53	32	
	-1.1	<u>2.4</u>	-1.5	0.052
12. なし	58	112	188	
	-4.1	-3.4	<u>7.0</u>	<u>0.0</u>

【（問8）中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとして、自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった】という質問に「1. そう思う」と回答した人は、【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「1. 適指」「5. 病院」であり、

（問8）「中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとして、自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった」という質問に「2. 少しそう思う」と回答した人は、【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「11. その他」「10. SC」であり、

（問8）「中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとして、自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった」という質問に「3. そう思わない」と回答した人は、【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「12. なし」である。

### （3）中学校3年生時の休んでいた時の気持ち（問8c）

■【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問8）中学校3年生時の休んでいた時の気持ち】のうち【（C）学校へ行きたかったが、行けなかった】と回答した人とのクロス集計（上段…観察数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 16 を参照する。

問6	学校へ行きたかったが、行けなかった（問8c）			
	1 そう思う	2 少しそう思う	3 そう思わない	P 値
1 適指	109	103	100	
	88.8	100.3	122.9	
	2.8	0.4	-3.0	<u>0.004</u>

2 相談	37	23	30	
	25.6	28.9	35.5	
	<b>2.7</b>	-1.4	-1.2	<b>0.02</b>
3 児相	24	33	24	
	23.1	26	31.9	
	0.2	1.7	-1.8	0.13
4 保健	6	7	6	
	5.4	6.1	7.5	
	0.3	0.4	-0.7	0.78
5 病院	157	127	99	
	109	123.1	150.9	
	<b>6.3</b>	0.5	-6.3	<b>0.0</b>
6 FS	49	39	49	
	39	44	54	
	2.0	-1.0	-0.9	0.14
7 民間	55	34	36	
	35.6	40.2	49.2	
	<b>4.0</b>	-1.2	-2.5	<b>0.0</b>
8 養教	144	126	106	
	107	120.9	148.1	
	<b>4.9</b>	0.7	-5.1	<b>0.0</b>
9 教師	160	181	128	
	133.5	150.8	184.7	
	<b>3.3</b>	<b>3.6</b>	-6.4	<b>0.0</b>
10 SC	180	197	164	
	154	173.9	213.1	
	<b>3.1</b>	<b>2.6</b>	-5.4	<b>0.0</b>
11 その他	35	37	37	
	31	35	42.9	
	0.9	0.4	-1.2	0.46
12 なし	56	84	217	
	101.6	114.8	140.6	
	-6.1	-4.0	<b>9.4</b>	<b>0.0</b>

(問8) 「中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとして、学校に行きたかったが、行けなかった」という質問に「1. そう思う」と回答した人は、【(問6) 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「5. 病院」「8. 養教」「7. 民間」「9. 教師」「10. SC」「1. 適指」「2. 相談」「6. FS」であり、

(問8) 「中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとして、学校に行きたかったが、行けなかった」という質問に「2. 少しそう思う」と回答した人は、【(問6) 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「9. 教師」「10. SC」であり、

(問8) 「中学校3年生時の休んでいた時の気持ちとして、学校に行きたかったが、行けな

った」という質問に「3. そう思わない」と回答した人は、【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「12. なし」である。

## 5 中学校3年生時の学校以外の方法による学習ニーズとの関連

- 【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問9）中学校3年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか】とのクロス集計（上段…観察数、下段…標準化残差）  
※設問及び選択肢については、P. 16を参照する。

問6	中学校3年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか（問9）		
	1. 思っていた	2. 思っていなかった	P値
1. 適指	204	110	
	<u>8.8</u>	-8.8	<u>0.0</u>
2. 相談	51	38	
	<u>2.8</u>	-2.8	<u>0.007</u>
3. 児相	36	45	
	0.3	-0.3	0.87
4. 保健	9	10	
	0.4	-0.4	0.87
5. 病院	203	178	
	<u>4.7</u>	-4.7	<u>0.0</u>
6. FS	82	58	
	<u>3.9</u>	-3.9	<u>0.0</u>
7. 民間	73	51	
	<u>3.7</u>	-3.7	<u>0.0</u>
8. 養教	190	184	
	<u>3.5</u>	-3.5	<u>0.001</u>
9. 教師	218	251	
	1.8	-1.8	0.07
10. SC	271	271	
	<u>4.1</u>	-4.1	<u>0.0</u>
11. その他	52	57	
	1.0	-1.0	0.35
12. なし	88	267	
	-7.9	<u>7.9</u>	<u>0.0</u>

【（問9）中学校3年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか】という質問に「1. そう思う」と回答した人は、【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「1. 適指」「5. 病院」「10. SC」「6. FS」「7. 民間」「8. 養教」「2. 相談」であり、

【（問9）中学校3年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか】という質問に「2. 思っていなかった」と回答した人は、【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「12. なし」である。

## 6 中学校3年生時の将来の夢・希望との関連

■【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問10）中学校3年生時の将来の夢・希望】とのクロス集計（上段…観察数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P.16を参照する。

問6	中学校3年生時の将来の夢・希望（問10）			
	1. あった	2. ぼんやりとあった	3. なかった	P値
1. 適指	103	103	109	
	<u>4.5</u>	-0.9	-3.0	<u>0.0</u>
2. 相談	26	28	35	
	1.4	-0.7	-0.5	0.38
3. 児相	28	25	29	
	<u>2.4</u>	-0.8	-1.3	0.05
4. 保健	6	2	11	
	0.9	-2.2	1.4	0.08
5. 病院	97	125	160	
	1.2	-1.0	-0.1	0.45
6. FS	32	45	63	
	-0.1	-0.7	0.7	0.73
7. 民間	39	42	44	
	<u>2.2</u>	-0.3	-1.6	0.07
8. 養教	105	154	117	
	<u>2.5</u>	<u>2.9</u>	-4.9	<u>0.0</u>
9. 教師	112	199	159	
	0.4	<u>4.1</u>	-4.3	<u>0.0</u>
10. SC	135	195	215	
	1.1	0.6	-1.5	0.3
11. その他	20	44	47	
	-1.3	1.1	0.1	0.33
12. なし	74	111	174	
	-1.3	-1.7	<u>2.8</u>	<u>0.02</u>

【（問10）中学校3年生時の将来の夢・希望】の有無に関する質問に「1. あった」と回答した人は、【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「1. 適指」「8. 養教」「3. 児相」「7. 民間」であり、

【（問10）中学校3年生時の将来の夢・希望】の有無に関する質問に「2. ぼんやりとあった」と回答した者は【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「9. 教師」「8. 養教」であり、

【（問10）中学校3年生時の将来の夢・希望】の有無に関する質問に「3. なかった」と回答し

た者は【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「12. なし」である。

## 7 不登校に対する後悔の有無との関連

■【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問13）不登校に対する後悔の有無】とのクロス集計（上段…観察数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 16 を参照する。

問6	不登校に対する後悔の有無（問13）				P 値
	1. 行けばよかった	2. しかたがなかった	3. 行かなくてよかった	4. 何とも思わない	
1. 適指	106	106	45	49	0.13
	-1.7	1.1	1.7	-0.7	
2. 相談	23	30	18	14	<u>0.02</u>
	-2.3	0.7	<u>2.7</u>	-0.2	
3. 児相	28	31	11	9	0.3
	-0.6	1.4	0.6	-1.4	
4. 保健	5	9	1	3	0.38
	-1.0	1.7	-0.8	-0.1	
5. 病院	112	163	56	43	<u>0.0</u>
	-4.0	<u>5.6</u>	<u>2.1</u>	-3.5	
6. FS	46	43	20	29	0.36
	-1.4	-0.2	1.0	1.2	
7. 民間	42	52	14	15	0.06
	-1.1	<u>2.6</u>	-0.2	-1.6	
8. 養教	145	142	32	51	<u>0.002</u>
	0.2	<u>3.1</u>	-2.2	-2.1	
9. 教師	184	164	54	62	0.03
	0.5	1.9	-0.2	-2.8	
10. SC	200	200	60	76	<u>0.004</u>
	-0.9	<u>3.3</u>	-0.6	-2.4	
11. その他	29	50	17	12	<u>0.001</u>
	-2.6	<u>3.3</u>	1.3	-1.8	
12. なし	145	80	37	91	<u>0.0</u>
	1.0	-4.3	-0.9	<u>4.7</u>	

【（問13）不登校に対する後悔の有無】の質問に「1. 行けばよかった」と回答した人は、【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目はない。

【（問13）不登校に対する後悔の有無】の質問に「2. しかたがなかった」と回答した人は、【（問6）中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「5. 病院」「10. SC」「11. その他」「8. 養教」「7. 民間」であり、

【（問13）に対する後悔の有無】の質問に「3. 行かなくてよかった」と回答した人は、【（問

6) 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「2. 相談」「5. 病院」であり、

【(問13)に対する後悔の有無】という質問に「4. 何とも思わない」と回答した人は、【(問6) 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「12. なし」である。

## 8 中学校卒業時の就学・就業状況(問15)との関連

### (1) 高等学校等への進学状況(問15-1)

■【(問6) 中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【(問15-1) 高等学校等への就学状況】に対する回答とのクロス集計(上段…観察数、下段…標準化残差)

※設問及び選択肢については、P. 16を参照する。

問6	高等学校等への進学状況(問15-1)		
	1. 進学した	2. 進学しなかった	P値
1. 適指	300 <u>3.7</u>	16 -3.7	<u>0.0</u>
2. 相談	82 0.6	8 -0.6	0.68
3. 児相	71 -0.8	11 0.8	0.55
4. 保健	17 0.0	2 0.0	1.0
5. 病院	362 <u>4.0</u>	20 -4.0	<u>0.0</u>
6. FS	129 1.2	11 -1.2	0.3
7. 民間	117 1.7	8 -1.7	0.13
8. 養教	349 <u>2.6</u>	27 -2.6	<u>0.013</u>
9. 教師	430 1.6	42 -1.6	0.13
10. SC	507 <u>3.4</u>	39 -3.4	<u>0.001</u>
11. その他	100 0.3	11 -0.3	0.89
12. なし	295 -4.9	64 <u>4.9</u>	<u>0.0</u>

【(問15-1) 高等学校等への就学状況】の質問に「1. 進学した」と回答した人は、【(問6) 中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている項目

は高い比率から順に「5. 病院」「1. 適指」「10. SC」「8. 養教」であり、

【（問 15-1）高等学校等への就学状況】の質問に「2. 進学しなかった」と回答した人は、【（問 6）中学校 3 年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている項目は「12. なし」である。

## （2）就職状況（問 15-3）

■ 【（問 6）中学校 3 年生時に利用した施設・相談した人】と【（問 15-3）就職状況】に対する回答とのクロス集計（上段…観察数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 16 を参照する。

問 6	就職状況（問 15-3）		
	1. 就職したことがある	2. 就職したことがない	P 値
1. 適指	175	135	
	-1.1	1.1	0.31
2. 相談	53	35	
	0.2	-0.2	0.92
3. 児相	43	38	
	-1.1	1.1	0.31
4. 保健	11	7	
	0.2	-0.2	1.0
5. 病院	196	180	
	-3.2	<u>3.2</u>	<u>0.002</u>
6. FC	79	61	
	-0.7	0.7	0.55
7. 民間	72	53	
	-0.4	0.4	0.79
8. 養教	232	135	
	1.8	-1.8	0.08
9. 教師	271	195	
	-0.5	0.5	0.64
10. SC	305	234	
	-1.5	1.5	0.15
11. その他	63.9	44.1	
	0.0	0.0	1.0
12. なし	217	135	
	1.1	-1.1	0.3

【（問 15-3）就職状況】の質問に「2. 就職したことがない」と回答した人は、【（問 6）中学校 3 年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている項目は「5. 病院」である。

## 9 中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人（問16）との関連

■【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問16）中学校卒業から現在までに利用した施設・相談した人】とのクロス集計（上段…観察数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 16、30を参照する。

問6	中学校卒業後から現在の利用した施設・相談した人（問16）													
	1 適指	2 相談	3 児相	4 職安	5 保健	6 病院	7 FS	8 林庁	9 民間	10 養教	11 教師	12 SC	13 その他	14 なし
1 適指	66	9	17	52	8	110	16	10	23	34	80	44	27	79
	<u>15.7</u>	1.7	<u>4.1</u>	0.2	1.2	<u>2.8</u>	1.1	1.9	1.0	1.8	1.5	<u>3.2</u>	1.1	-5.4
2 相談	10	17	8	16	3	37	6	3	8	15	25	13	8	21
	<u>3.0</u>	<u>12.7</u>	<u>4.2</u>	0.3	1.2	<u>2.6</u>	1.3	1.0	1.1	<u>2.9</u>	1.1	1.7	0.6	-3.2
3 児相	7	5	21	13	5	26	7	4	7	12	25	12	8	15
	1.8	<u>3.1</u>	<u>14.5</u>	-0.1	<u>3.1</u>	0.7	<u>2.2</u>	<u>2.1</u>	1.0	<u>2.1</u>	1.8	1.7	1.0	-3.8
4 保健	3	0	3	5	8	8	2	1	1	2	3	2	1	4
	<u>2.3</u>	-0.6	<u>3.9</u>	1.2	<u>13.4</u>	1.3	1.4	1.1	-0.2	0.3	-0.7	0.2	-0.3	-1.6
5 病院	21	5	10	56	16	254	19	14	38	56	127	54	32	65
	1.0	-0.8	0.4	-1.0	<u>4.2</u>	<u>18.7</u>	1.1	<u>3.0</u>	<u>3.6</u>	<u>5.1</u>	<u>5.7</u>	<u>3.7</u>	1.0	-10.1
6 FS	13	5	4	23	5	43	36	6	14	16	35	21	5	43
	<u>2.8</u>	1.7	0.4	0.0	1.7	0.5	<u>13.7</u>	<u>2.2</u>	2.0	1.3	0.7	<u>2.4</u>	-1.7	-2.1
7 民間	7	4	4	13	4	47	10	5	44	16	39	14	9	28
	0.5	1.3	0.7	-1.9	1.3	<u>2.2</u>	<u>2.3</u>	1.8	<u>14.0</u>	1.8	<u>2.3</u>	0.7	0.0	-4.0
8 養教	22	6	9	76	9	149	16	11	36	80	128	62	34	90
	1.5	-0.2	0.2	<u>2.7</u>	1.2	<u>5.8</u>	0.4	1.8	<u>3.4</u>	<u>10.6</u>	<u>6.5</u>	<u>5.7</u>	1.8	-6.4
9 教師	20	10	10	88	10	163	18	12	31	63	176	65	45	127
	-0.4	0.8	-0.3	1.8	0.8	<u>3.6</u>	-0.2	1.3	0.6	<u>4.8</u>	<u>9.4</u>	<u>4.1</u>	<u>2.5</u>	-6.1
10 SC	34	12	14	74	13	180	27	15	37	80	175	92	48	170
	<u>2.4</u>	1.1	0.5	-2.0	1.5	<u>2.9</u>	1.5	1.9	0.9	<u>6.7</u>	<u>6.8</u>	<u>7.6</u>	1.9	-4.3
11 その他	4	5	2	23	0	39	4	6	12	14	32	11	22	27
	-0.5	<u>2.3</u>	-0.4	1.4	-1.4	1.7	-0.2	<u>2.9</u>	<u>2.2</u>	1.7	1.7	0.3	<u>5.5</u>	-3.1
12 なし	1	2	1	59	2	45	4	1	7	6	34	8	16	226
	-4.5	-2.0	-3.0	0.0	-2.0	-7.9	-3.2	-2.6	-3.8	-5.3	-6.9	-5.3	-2.3	<u>10.6</u>

【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問16）中学校卒業から現在までに利用した施設・相談した人】との関連について、有意な差が生じている項目は高い比率から順に示せば以下のとおりである。

【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】→【（問16）中学校卒業から現在までに利用した施設・相談した人】  
「1.適指」 → 「1.適指」「3.児相」「12.SC」「6.病院」

「2. 相談」 → 「2. 相談」 「3. 児相」 「1. 適指」 「10. 養教」 「6. 病院」  
「3. 児相」 → 「3. 児相」 「2. 相談」 「5. 保健」 「7. FS」 「8. 林° ｽ」 「10. 養教」  
「4. 保健」 → 「5. 保健」 「3. 児相」 「1. 適指」  
「5. 病院」 → 「6. 病院」 「11. 教師」 「10. 養教」 「5. 保健」 「12. SC」 「9. 民間」 「8. 林° ｽ」  
「6. FS」 → 「7. FS」 「1. 適指」 「12. SC」 「8. 林° ｽ」  
「7. 民間」 → 「9. 民間」 「7. FS」 「11. 教師」 「6. 病院」  
「8. 養教」 → 「10. 養教」 「11. 教師」 「6. 病院」 「12. SC」 「9. 民間」 「4. 職安」  
「9. 教師」 → 「11. 教師」 「10. 養教」 「12. SC」 「6. 病院」 「13. その他」  
「10. SC」 → 「12. SC」 「11. 教師」 「10. 養教」 「6. 病院」 「1. 適指」  
「11. その他」 → 「13. その他」 「8. 林° ｽ」 「2. 相談」 「9. 民間」  
「12. なし」 → 「14. なし」

といった相関が見られる。

全体的には、中学校3年生時に利用していた施設等を、卒業後から現在までも、同様に利用している傾向が顕著に見られる。

なお、卒業後から現在は職業安定所やサポートステーションなどの職業相談や職業サポート機関が新たな選択肢として加わる。その軸を中心に捉えた時、【(問16) 中学校卒業から現在までに利用した施設・相談した人】と【(問6) 中学校3年生時に利用した施設・相談した人】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に示せば以下のとおりである。

【(問6) 中学校3年生時に利用した施設・相談した人】 ← 【(問16) 中学校卒業から現在までに利用した施設・相談した人】  
「8. 養教」 ← 「4. 職安」  
「5. 病院」 「11. その他」 「6. FS」 「3. 児相」 ← 「8. 林° ｽ」

中学校3年生時に施設・相談機関を利用していなかった者は、卒業後も施設・相談機関を利用することは極めて少ない。

## 10 中学卒業後の支援に対するニーズ(問17)との関連

■ 【(問6) 中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【(問17) 中学校卒業後の支援のニーズ】とのクロス集計(上段…観察数、下段…標準化残差)

※設問及び選択肢については、P. 16、33を参照する。

問6	中学校卒業後の支援のニーズ(問17)									
	1 進学	2 仕事	3 勉強	4 技能	5 表現	6 居場所	7 悩み	8 生活	9 その他	10 なし
1 適指	78 <u>2.6</u>	97 1.6	78 <u>3.4</u>	119 <u>2.3</u>	105 <u>2.7</u>	94 <u>2.4</u>	107 <u>2.6</u>	38 <u>2.2</u>	9 0.2	82 -3.6
2 相談	23 1.4	29 1.0	23 1.8	30 0.1	34 <u>2.2</u>	30 1.9	36 <u>2.5</u>	13 1.8	4 1.0	22 -2.2
3 児相	13 -0.9	22 -0.1	19 1.2	29 0.6	20 -0.6	26 1.6	27 1.0	9 0.7	4 1.3	26 -0.5

4	5	10	7	6	9	11	9	4	2	3
保健	0.7	<u>2.4</u>	<u>2.1</u>	-0.2	1.9	<u>3.3</u>	1.8	1.8	<u>2.1</u>	-1.8
5	100	107	93	134	126	121	145	40	18	100
病院	<u>3.6</u>	0.2	<u>3.5</u>	1.1	<u>2.7</u>	<u>3.6</u>	<u>4.8</u>	1.1	<u>2.8</u>	-4.1
6	38	47	35	57	54	46	49	20	3	32
FS	<u>2.2</u>	1.6	<u>2.1</u>	<u>2.0</u>	<u>3.0</u>	<u>2.3</u>	1.8	<u>2.2</u>	-0.4	-3.2
7	27	28	26	38	42	39	52	12	5	35
民間	0.5	-1.3	0.8	-0.6	1.6	1.7	<u>3.5</u>	0.2	0.9	-1.7
8	81	113	75	140	135	120	134	46	9	101
養教	1.1	1.4	1.0	<u>2.3</u>	<u>4.3</u>	<u>3.8</u>	<u>3.8</u>	<u>2.6</u>	-0.4	-3.6
9	95	136	92	151	163	128	140	51	13	152
教師	0.3	0.8	0.8	-0.4	<u>4.2</u>	1.4	0.8	1.6	0.1	-1.4
10	116	163	120	180	161	145	187	60	15	160
SC	1.1	1.6	<u>2.8</u>	0.2	1.4	1.3	<u>3.9</u>	<u>2.0</u>	0.1	-3.3
11	20	31	20	42	28	28	31	5	8	37
その他	-0.4	0.2	0.0	1.3	-0.5	0.2	0.0	-1.7	<u>3.1</u>	-0.2
12	59	91	37	106	69	60	65	23	10	171
なし	-1.9	-1.2	-4.6	-1.6	-4.1	-4.2	-5.0	-2.0	0.1	<u>5.7</u>

【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問17）中学校卒業後の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている項目は高い比率から順に示せば以下のとおりである。

【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】→【（問17）中学校卒業後の支援のニーズ】

- 「1. 適指」 → 「3. 勉強」「5. 表現」「1. 進学」「7. 悩み」「6. 居場所」「4. 技能」「8. 生活」  
「2. 相談」 → 「7. 悩み」「5. 表現」  
「4. 保健」 → 「6. 居場所」「2. 仕事」「3. 勉強」「9. その他」  
「5. 病院」 → 「7. 悩み」「1. 進学」「6. 居場所」「3. 勉強」「9. その他」  
「6. FS」 → 「5. 表現」「6. 居場所」「1. 進学」「8. 生活」「3. 勉強」「4. 技能」  
「7. 民間」 → 「7. 悩み」  
「8. 養教」 → 「5. 表現」「6. 居場所」「7. 悩み」「8. 生活」「4. 技能」  
「9. 教師」 → 「5. 表現」  
「10. SC」 → 「7. 悩み」「3. 勉強」「8. 生活」  
「11. その他」 → 「9. その他」  
「12. なし」 → 「10. なし」

といった相関が見られる。

中学校3年生時に施設や相談機関を利用していた者は、中学校卒業後も様々な支援ニーズがあることが明らかになった。これに対して、利用していなかった者は、中学卒業後には支援を求めていることが多い。

## 11 不登校によるマイナスの影響（問 31）との関連

■【（問 6）中学校 3 年生時に利用した施設・相談した人】と【（問 31）不登校によるマイナスの影響】とのクロス集計（上段…観察数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 16 を参照する。

問 6	不登校によるマイナスの影響（問 31）			
	1. 感じている	2. 感じていない	3. どちらともいえない	P 値
1. 適指	75	120	116	
	0.2	-1.1	0.9	0.54
2. 相談	25	36	29	
	1.0	-0.2	-0.6	0.62
3. 児相	21	28	33	
	0.4	-1.3	1.0	0.4
4. 保健	9	3	7	
	<u>2.5</u>	-2.3	0.2	<u>0.02</u>
5. 病院	99	141	139	
	1.3	-1.8	0.7	0.16
6. FS	34	52	53	
	0.2	-1.0	0.8	0.61
7. 民間	27	49	49	
	-0.6	-0.5	1.0	0.6
8. 養教	84	139	150	
	-0.6	-1.8	<u>2.4</u>	<u>0.06</u>
9. 教師	120	189	156	
	1.3	-0.3	-0.9	0.4
10. SC	127	209	202	
	0.0	-1.4	1.5	0.28
11. その他	22	49	38	
	-0.9	0.8	-0.1	0.61
12. なし	78	170	112	
	-1.0	<u>2.6</u>	-1.8	<u>0.03</u>

【（問 6）中学校 3 年生時に利用した施設・相談した人】と【（問 31）不登校によるマイナスの影響】との関連について、不登校によるマイナスの影響について「1. 感じている」を選択した者は、中学校 3 年生時に利用していた施設・相談した者は「4. 保健」、不登校による現在へのマイナス影響について「3. どちらともいえない」を選択した者は中学校 3 年生時に利用していた施設・相談した者は「8. 養教」の項目について有意な差が生じている。また、中学校 3 年生時に施設・相談機関を利用していない者は不登校による現在へのマイナス影響については「2. 感じてい

ない」の項目について有意な差が生じている。ただし、これらの有意差はいずれも低く、中学校3年生時の施設の利用状況・相談した人と不登校によるマイナスの影響との関連は、全体的に低いと言える。

## 12 今後の支援に対するニーズ（問34）との関連

■【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問34）今後の支援に対するニーズ】とのクロス集計（上段…観察数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P.16を参照する。

	今後の支援に対するニーズ（問34）									
	1 進学	2 仕事	3 勉強	4 技能	5 表現	6 居場所	7 悩み	8 生活	9 その他	10 なし
1 適指	47 1.7	152 <u>3.2</u>	51 <u>2.1</u>	155 <u>2.9</u>	108 <u>3.7</u>	103 <u>2.9</u>	116 <u>3.6</u>	43 <u>2.7</u>	9 0.0	68 -4.1
2 相談	13 0.6	48 <u>2.4</u>	10 -0.5	49 <u>2.2</u>	30 1.4	36 <u>2.9</u>	42 <u>3.7</u>	13 1.5	4 0.9	17 -2.7
3 児相	9 -0.3	38 1.2	14 1.3	39 1.0	22 0.1	29 1.9	28 1.1	11 1.2	4 1.2	20 -1.4
4 保健	2 -0.2	9 0.5	2 -0.3	8 -0.1	7 1.0	9 <u>2.0</u>	5 -0.3	1 -0.7	1 0.6	6 0.0
5 病院	43 -0.8	175 <u>2.2</u>	68 <u>3.3</u>	185 <u>2.5</u>	114 1.6	135 <u>4.4</u>	146 <u>4.4</u>	50 <u>2.5</u>	17 <u>2.1</u>	94 -3.5
6 FS	23 1.6	59 0.5	28 <u>2.8</u>	64 0.9	45 1.7	43 1.3	55 <u>2.9</u>	17 1.1	2 -1.0	39 -0.9
7 民間	14 -0.4	53 0.3	15 -0.3	56 0.4	35 0.3	45 <u>2.4</u>	45 1.7	8 -1.3	5 0.8	35 -1.0
8 養教	49 0.6	165 1.5	57 1.6	192 <u>3.9</u>	121 <u>2.9</u>	123 <u>3.2</u>	143 <u>4.5</u>	53 <u>3.3</u>	9 -0.6	97 -2.7
9 教師	62 0.8	213 <u>2.6</u>	67 1.2	225 <u>2.9</u>	151 <u>3.4</u>	141 <u>2.1</u>	158 <u>2.7</u>	56 <u>2.0</u>	16 0.9	118 -3.5
10 SC	62 -0.7	232 1.3	76 1.2	243 1.4	160 <u>2.1</u>	154 1.3	193 <u>4.3</u>	58 1.0	13 -0.8	149 -2.4
11 その他	12 -0.3	44 0.1	11 -0.8	49 0.7	35 1.5	35 1.5	43 <u>2.6</u>	13 0.9	11 <u>4.8</u>	24 -2.1
12 なし	45 0.1	123 -3.0	30 -2.9	124 -3.7	65 -4.2	75 -2.9	62 -5.7	23 -2.5	9 -0.5	151 <u>4.8</u>

【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【（問34）今後の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている項目は高い比率から順に示せば以下のとおりである。

【（問6）中学校3年生時に利用した施設・相談した人】→【（問34）今後の支援のニーズ】  
「1. 適指」 → 「5. 表現」「7. 悩み」「2. 仕事」「4. 技能」「6. 居場所」「8. 生活」  
「3. 勉強」

「2. 相談」 → 「7. 悩み」 「6. 居場所」 「2. 仕事」 「4. 技能」  
「4. 保健」 → 「6. 居場所」  
「5. 病院」 → 「7. 悩み」 「6. 居場所」 「3. 勉強」 「4. 技能」 「8. 生活」 「2. 仕事」  
「9. その他」  
「8. 養教」 → 「7. 悩み」 「4. 技能」 「8. 生活」 「6. 居場所」 「5. 表現」  
「9. 教師」 → 「5. 表現」 「4. 技能」 「7. 悩み」 「2. 仕事」 「6. 居場所」 「8. 生活」  
「10. SC」 → 「7. 悩み」 「5. 表現」  
「11. その他」 → 「9. その他」 「7. 悩み」  
「12. なし」 → 「10. なし」

といった相関が見られた。

中学校3年生時に、施設・相談機関を利用していた者は、今後の生活設計においても様々な支援ニーズがあることが明らかになった。これに対して、施設・相談機関を利用していなかった者は、今後も生活設計において支援を求めていることが多い。

## 第10章 中学校3年生時の支援のニーズと他項目との関連

### 1 中学校3年生時の休んでいた時の気持ち（問8）との関連

(1) 「中学校3年生時の休んでいた時の気持ち」のうち「a. 特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった」との関連

■【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】と【（問8）中学校3年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「a. 特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった」とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢についてはP. 18を参照する。

問7	特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった（問8a）			
	1. そう思う	2. 少しそう思う	3. そう思わない	P値
1. 進学	57	94	196	
	-4.4	0.1	<u>3.7</u>	<u>0.0</u>
2. 仕事	50	45	83	
	0.8	-0.5	-0.3	0.69
3. 勉強	61	103	222	
	-5.1	-0.1	<u>4.5</u>	<u>0.0</u>
4. 技能	76	91	165	
	-1.2	0.3	0.8	0.47
5. 表現	78	151	257	
	-5.8	<u>2.6</u>	<u>2.8</u>	<u>0.0</u>
6. 居場所	77	104	207	
	-3.0	0.0	<u>2.6</u>	<u>0.007</u>
7. 悩み	78	131	297	
	-6.4	-0.6	<u>6.0</u>	<u>0.0</u>
8. 生活	40	38	63	
	0.8	0.0	-0.8	0.67
9. その他	22	11	47	
	0.4	-2.7	<u>2.0</u>	<u>0.02</u>
10. なし	183	125	197	
	<u>6.8</u>	-1.3	-4.8	<u>0.0</u>

【（問8）中学校3年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「a. 特に問題を感じたり、気にすることはなかった」という質問に「3. そう思わない」と回答した者は、【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「7.

悩み」「3.勉強」「1.進学」「5.表現」「6.居場所」「9.その他」であり、

【（問8）中学校3年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「a.特に問題を感じたり、気にすることはなかった」という質問に「2.少しそう思う」と回答した者は、【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「5.表現」であり、

【（問8）中学校3年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「a.特に問題を感じたり、気にすることはなかった」という質問に「1.そう思う」と回答した者は、【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「5.なし」である。

不登校で学校を休んでいたことを問題だと感じ、気にしていた生徒は、悩みが多岐にわたっているが、「2.仕事」や「4.技能」など仕事に関連する項目や「8.生活」など生活に関わる項目では有意に高い項目はなく、学業と人間関係の悩みがその中核であることが分かる。また、不登校で学校を休んでいたことを問題だと感じず、気にしていなかった生徒は支援を求めている傾向がある。

（2）「中学校3年生時の休んでいた時の気持ち」のうち、「b.自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった」との関連

■【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】と【（問8）中学校3年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「b.自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった」とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢についてはP.18を参照する。

問7	b.自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった（問8 b）			
	1.そう思う	2.少しそう思う	3.そう思わない	P値
1.進学	113	140	96	
	<u>4.1</u>	0.5	-4.2	<u>0.0</u>
2.仕事	57	61	62	
	<u>2.5</u>	-1.5	-0.7	<u>0.04</u>
3.勉強	116	155	114	
	<u>3.2</u>	0.6	-3.4	<u>0.0</u>
4.技能	102	123	108	
	<u>3.1</u>	-0.8	-1.9	<u>0.007</u>
5.表現	153	189	145	
	<u>4.5</u>	0.0	-4.0	<u>0.0</u>
6.居場所	122	153	114	
	<u>3.8</u>	0.2	-3.6	<u>0.0</u>
7.悩み	143	216	150	
	<u>2.5</u>	<u>2.0</u>	-4.3	<u>0.0</u>

8. 生活	42	53	46	
	1.6	-0.3	-1.1	0.24
9. その他	12	28	37	
	-1.8	-0.5	2.1	0.07%
10. なし	80	178	246	
	-5.3	-2.0	<u>6.7</u>	<u>0.0%</u>

【（問 8）中学校 3 年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「b. 自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった」という質問に「1. そう思う」と回答した者は、【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「5. 表現」「1. 進学」「6. 居場所」「3. 勉強」「4. 技能」「2. 仕事」「7. 悩み」であり、一方、【（問 8）中学校 3 年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「b. 自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった」という質問に「3. そう思わない」と回答した者は、【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「10. なし」である。

不登校で学校に行っていないことに対し、悪いとは思わないが他人の見方が気になっていた回答者は悩みが多岐にわたっており、その悩みについて支援を求める傾向が強いことが分かる。上位の 4 つのうち「5. 表現」「6. 居場所」という回答は、主に人間関係に関わる悩みであり、「1. 進学」「3. 勉強」という回答は、主に進路や学業に関わる悩みである。

また、不登校であったことに対し、悪いことと思わず他人の見方が気にならなかったと回答した者は支援のニーズを求めない傾向がある。

### （3）「中学校 3 年生時の休んでいた時の気持ち」のうち、「c. 学校へ行きたかったが、行けなかった」との関連

■【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】と【（問 8）中学校 3 年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「c. 学校へ行きたかったが、行けなかった」とのクロス集計  
（上段…観測度数、下段…標準化残差）  
※設問及び選択肢については P. 18 を参照する。

問 7	c. 学校へ行きたかったが、行けなかった（問 8c）			
	1. そう思う	2. 少しそう思う	3. そう思わない	P 値
1. 進学	153	110	93	
	<u>6.9</u>	-0.3	-6.0	<u>0.0</u>
2. 仕事	54	60	66	
	0.5	0.5	-0.9	0.65
3. 勉強	152	143	97	
	<u>5.2</u>	<u>2.4</u>	-7.1	<u>0.0</u>
4. 技能	108	111	118	
	1.6	0.6	-2.1	0.1

5. 表現	182	165	146	
	<u>5.0</u>	1.1	-5.6	<u>0.0</u>
6. 居場所	154	128	107	
	<u>5.6</u>	0.6	-5.8	<u>0.0</u>
7. 悩み	206	159	145	
	<u>7.3</u>	-0.3	-6.4	<u>0.0</u>
8. 生活	42	48	52	
	0.3	0.6	-0.8	0.7
9. その他	32	17	31	
	<u>2.3</u>	-2.1	-0.2	<u>0.03</u>
10. なし	92	130	285	
	-6.3	-3.5	<u>9.2</u>	<u>0.0</u>

【（問 8）中学校 3 年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「c. 学校へ行きたかったが、行けなかった」の質問に「1. そう思う」と回答した者は、【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「7. 悩み」「1. 進学」「6. 居場所」「3. 勉強」「5. 表現」「9. その他」であり、

【（問 8）中学校 3 年生時の休んでいた時の気持ち】のうち「c. 学校へ行きたかったが、行けなかった」の質問に「3. そう思わない」と回答した者は、【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「10. なし」である。

「c. 学校へ行きたかったが、行けなかった」に対し「そう思う」と回答した者において、特に有意に高い項目は「7. 悩み」「1. 進学」であり、心の悩み、進学への不安が非常に深いことが推察される。一方、「2. 仕事」「4. 技能」「8. 生活」「10. なし」については、有意な差は見られない。これらの結果から、「学校へ行きたかったが、行けなかった」と回答した者は、学校に行っていないものの、学業や人間関係に対して消極的なわけではなく、支援を必要としている状況がうかがえる。

「c. 学校へ行きたかったが、行けなかった」に対し、「そう思わない」と回答した者は、全体の約 40%を占める（P. 19 参照）が、これらの回答者は、支援を必要と感じていない傾向が有意に高い。しかし、実数として見るならば、「そう思わない」と回答した者であっても、その総数 623 人から「10. なし」の 285 人を除いた 338 人は、何らかの支援を必要としていた。これらの数値は自らの不登校状態を肯定しつつも、何らかの支援を必要としている状態にあることを示唆している。

## 2 中学校 3 年生時の学校以外の方法による学習ニーズ（問 9）との関連

- 【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】と【（問 9）中学校 3 年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか】とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）  
※設問及び選択肢については P. 18 を参照する。

問 7	中学校3年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか (問 9)		
	1. 思っていた	2. 思っていなかった	P 値
1. 進学	211	142	
	<u>7.4</u>	-7.4	<u>0.0</u>
2. 仕事	77	101	
	0.2	-0.2	0.94
3. 勉強	224	164	
	<u>6.9</u>	-6.9	<u>0.0</u>
4. 技能	170	165	
	<u>3.4</u>	-3.4	<u>0.0</u>
5. 表現	257	233	
	<u>5.3</u>	-5.3	<u>0.0</u>
6. 居場所	205	184	
	<u>4.6</u>	-4.6	<u>0.0</u>
7. 悩み	272	240	
	<u>5.8</u>	-5.8	<u>0.0</u>
8. 生活	66	77	
	0.9	-0.9	0.43
9. その他	48	33	
	<u>3.1</u>	-3.1	<u>0.003</u>
10. なし	131	368	
	-9.0	<u>9.0</u>	<u>0.0</u>

【(問 9) 中学校3年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか】という質問に「1. 思っていた」と回答した者は、【(問 7) 中学校3年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「1. 進学」「3. 勉強」「7. 悩み」「5. 表現」「6. 居場所」「4. 技能」「9. その他」であり、

【(問 9) 中学校3年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか】という質問に「2. 思っていなかった」と回答した者は、【(問 7) 中学校3年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「10. なし」である。

「学校以外であれば勉強を続けたかったか」と思っていた者は、有効回答数の42.9% (P. 19 参照) であり、そう回答した者は、特に有意に高い項目は「1. 進学」「3. 勉強」など、学業に関する相談や手助けのニーズが高かった。しかし、学業に関連する項目以外の、心の悩みや人間関係に関する回答も有意に高かったことから、勉強を続けたいと思っている者が抱えている悩みは必ずしも学業の悩みだけではないことが分かる。

「学校以外であれば勉強を続けたかったか」に対し、「思っていなかった」と回答した者は、有効回答数の57.1%を占める (P. 19 参照) が、これらの回答者は、支援を必要と感じていない傾向が有意に高い。しかし、実数としてみるならば、「思っていなかった」と回答した者であっても、その総数891人から「10. なし」の368人を除いた523人は、何らかの支援を必要としていた。これらの数値は、学校以外であれば勉強を続けたかったかという質問に思っていなかったと回答

した者も、一概に支援のニーズがないわけではなく、何らかの支援を必要としている状態にあることを示唆している。

### 3 中学校3年生時の将来の夢・希望（問10）との関連

■【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】と【（問10）中学校3年生時の将来の夢・希望】とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢についてはP.18を参照する。

問7	中学校3年生時の将来の夢・希望（問10）			
	1. あった	2. ぼんやりと あった	3. なかった	P値
1. 進学	101	134	120	
	<u>2.8</u>	1.1	-3.5	<u>0.001</u>
2. 仕事	48	66	64	
	1.4	0.6	-1.7	0.19
3. 勉強	104	149	139	
	<u>2.0</u>	1.3	-3.0	<u>0.009</u>
4. 技能	80	119	137	
	0.5	0.1	-0.5	0.86
5. 表現	122	186	184	
	1.2	1.5	-2.5	0.05
6. 居場所	107	150	134	
	<u>2.4</u>	1.5	-3.5	<u>0.001</u>
7. 悩み	142	176	194	
	<u>3.2</u>	-0.5	-2.3	<u>0.004</u>
8. 生活	23	57	63	
	-2.0	1.2	0.5	0.12
9. その他	25	23	34	
	1.7	-1.4	-0.1	0.18
10. なし	88	164	258	
	-3.7	-1.8	<u>4.8</u>	<u>0.0</u>

【（問10）中学校3年生時の将来の夢・希望】の質問に「1. あった」と回答した者は、【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「7. 悩み」「1. 進学」「6. 居場所」「3. 勉強」であり、

一方、【（問10）中学校3年生時の将来の夢・希望】の質問に「3. なかった」と回答した者は、【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「10. なし」である。

自分の将来の夢や希望があったと回答した者は、有効回答数の23.0%（P.22参照）と人数自体

は少なかったが、心の悩みや人間関係、進路や学業に関する悩みは有意に高くなっていた。  
 一方で、自分の将来について夢や希望がなかったと回答した者は、支援を求めない傾向にある。

#### 4 不登校に対する後悔の有無（問13）との関連

■【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】と【（問13）不登校に対する後悔の有無】とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢についてはP.18を参照する。

問7	不登校に対する後悔の有無（問13）				P値
	1. 行けばよ かった	2. しかたが なかった	3. 行かなく てよかった	4. 何とも思 わない	
1. 進学	141	130	40	38	
	0.6	<u>2.5</u>	-0.2	-3.7	<u>0.001</u>
2. 仕事	76	54	19	25	
	1.3	-0.2	-0.4	-1.1	0.51
3. 勉強	165	142	39	41	
	1.7	<u>2.4</u>	-1.2	-4.1	<u>0.0</u>
4. 技能	143	108	41	40	
	1.7	0.4	0.3	-2.9	0.003
5. 表現	204	174	48	55	
	1.8	<u>2.5</u>	-1.5	-4.2	<u>0.0</u>
6. 居場所	147	141	43	53	
	-0.3	<u>2.4</u>	-0.4	-2.2	0.04
7. 悩み	182	209	55	55	
	-1.5	<u>5.9</u>	-0.7	-4.6	<u>0.0</u>
8. 生活	63	41	14	22	
	1.5	-0.7	-0.7	-0.6	0.5
9. その他	25	31	12	9	
	-1.2	1.7	1.0	-1.4	0.16
10. なし	176	128	63	136	
	-2.3	-3.7	0.6	<u>7.0</u>	<u>0.0</u>

【（問13）不登校に対する後悔の有無】の質問に「2. しかたがなかった」と回答した者は、【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に「7. 悩み」「5. 表現」「1. 進学」「3. 勉強」「6. 居場所」であり、

一方、【（問13）不登校に対する後悔の有無】の質問に「4. 何とも思わない」と回答した者は、【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「10. なし」である。

不登校であったことを何とも思わないと回答している人は、支援を求めない傾向にある。

## 5 中学校卒業後の就学・就業状況との関連

### (1) 中学校を卒業してからの高等学校等進学状況 (問 15-1)

- 【(問 7) 中学校 3 年生時の支援のニーズ】と【(問 15-1) 高等学校等への就学状況】とのクロス集計 (上段…観測度数、下段…標準化残差)  
 ※設問及び選択肢については P. 18 を参照する。

問 7	高等学校等への進学状況 (問 15-1)		
	1. 進学した	2. 進学しなかった	P 値
1. 進学	338	20	
	<u>3.6</u>	-3.6	<u>0.0</u>
2. 仕事	144	36	
	-4.2	<u>4.2</u>	<u>0.0</u>
3. 勉強	370	23	
	<u>3.7</u>	-3.7	<u>0.0</u>
4. 技能	298	39	
	-0.5	0.5	0.69
5. 表現	451	42	
	<u>2.0</u>	-2.0	0.06
6. 居場所	362	30	
	<u>2.3</u>	-2.3	0.03
7. 悩み	467	45	
	1.8	-1.8	0.09
8. 生活	134	9	
	1.8	-1.8	0.09
9. その他	70	11	
	-0.8	0.8	0.52
10. なし	435	75	
	-3.5	<u>3.5</u>	<u>0.001</u>

【(問 15-1) 高等学校等への就学状況】の質問に「1. 進学した」と回答した人は、【(問 7) 中学校 3 年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている項目は高い比率から順に「3. 勉強」「1. 進学」「6. 居場所」「5. 表現」であり、

【(問 15-1) 高等学校等への就学状況】の質問に「2. 進学しなかった」と回答した人は、【(問 7) 中学校 3 年生時の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている項目は高い比率から順に「3. 仕事」「10. なし」である。

不登校で高等学校に進学した者の割合 (87.7%) は、前回調査 (67.3%) に比べて増加した。高等学校等に進学した者は、中学校 3 年生時には進路や学業に関する悩みが主であり、その悩みについて支援を求めていた。学業以外にも「6. 居場所」「5. 表現」が有意に高くなっていたのは、人間関係に不安をもっていたとも考えられる。

一方、高等学校に進学しなかった者の割合（12.3%）は、前回調査（32.7%）に比べ減少した。高等学校に進学しなかった者は、仕事についての悩みが主であったことが分かる。

## （２）中学校を卒業してからの就職状況（問 15-3）

- 【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】と【（問 15-3）就職状況】とのクロス集計  
（上段…観測度数、下段…標準化残差）  
※設問及び選択肢については P. 18 を参照する。

問 7	就職状況（問 15-3）		
	1. 就職したことがある	2. 就職したことがない	P 値
1. 進学	186	168	
	-2.9	<u>2.9</u>	<u>0.004</u>
2. 仕事	120	57	
	<u>2.5</u>	-2.5	<u>0.02</u>
3. 勉強	212	177	
	-2.2	<u>2.2</u>	0.03
4. 技能	207	122	
	1.5	-1.5	0.14
5. 表現	285	199	
	-0.2	0.2	0.9
6. 居場所	218	170	
	-1.4	1.4	0.18
7. 悩み	298	204	
	0.1	-0.1	0.98
8. 生活	81	61	
	-0.6	0.6	0.64
9. その他	53	27	
	1.3	-1.3	0.23
10. なし	303	199	
	0.6	-0.6	0.65

【（問 15-3）就職状況】の質問に「1. 就職したことがある」と回答した者は【（問 6）中学校 3 年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている項目は「2. 仕事」であり、

【（問 15-3）就職状況】の質問に「2. 就職したことがない」と回答した者は【（問 6）中学校 3 年生時の施設の利用状況・相談した人】との関連について、有意な差が生じている項目は高い比率から順に「1. 進学」「3. 勉強」と回答する傾向が有意に高かった。

不登校生徒においても、就職志向の有無によって、必要と感じていた支援ニーズが異なっていることを示した結果である。これは、不登校生徒との関わりにおいて、本人のキャリア形成という視点をもちながら関わる重要性を示唆している。

## 6 中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人との関連（問16）

■【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】と【問16 中学校卒業から現在までに利用した施設・相談した人】とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢についてはP.18、（問16はP.30）を参照する。

問7	中学校卒業から現在までに利用した施設・相談した人（問16）													
	1 適指	2 相談	3 児相	4 職安	5 保健	6 病院	7 FS	8 サポステ	9 民間	10 養教	11 教師	12 SC	13 その他	14 なし
1 進学	26	9	15	46	10	131	15	11	23	44	101	49	30	99
	<u>2.8</u>	1.4	<u>2.7</u>	-1.9	1.8	<u>4.0</u>	0.3	1.8	0.4	<u>3.3</u>	<u>3.3</u>	<u>3.5</u>	1.3	-4.7
2 仕事	8	2	7	53	8	57	5	7	3	15	41	14	17	52
	-0.1	-0.6	1.5	<u>5.1</u>	<u>2.9</u>	0.9	-0.9	<u>2.0</u>	-2.6	0.0	0.2	-0.7	1.4	-2.9
3 勉強	30	10	11	70	12	132	16	10	22	47	102	51	40	112
	<u>3.4</u>	1.6	0.7	1.1	<u>2.3</u>	<u>2.6</u>	0.2	1.0	-0.4	<u>3.1</u>	<u>2.1</u>	<u>3.1</u>	<u>2.9</u>	-4.7
4 技能	21	6	11	76	10	119	23	15	20	40	83	44	27	89
	1.7	0.2	1.3	<u>3.7</u>	<u>2.0</u>	<u>3.2</u>	<u>3.1</u>	<u>3.8</u>	-0.1	<u>2.8</u>	1.3	<u>2.9</u>	0.9	-5.1
5 表現	30	8	15	89	17	190	26	18	45	61	139	75	46	134
	<u>2.0</u>	-0.1	1.3	1.5	<u>3.6</u>	<u>6.1</u>	1.9	<u>3.4</u>	<u>3.5</u>	<u>4.1</u>	<u>4.0</u>	<u>5.8</u>	<u>2.6</u>	-6.2
6 居場所	22	9	15	63	16	143	26	13	28	37	100	44	35	111
	1.2	1.1	<u>2.3</u>	0.0	<u>4.2</u>	<u>4.2</u>	<u>3.2</u>	<u>2.3</u>	1.1	1.1	<u>2.0</u>	1.8	1.8	-4.7
7 悩み	31	7	17	94	15	204	23	16	48	60	149	73	49	133
	1.9	-0.7	1.8	1.6	<u>2.5</u>	<u>6.8</u>	0.8	<u>2.4</u>	<u>3.8</u>	<u>3.4</u>	<u>4.5</u>	<u>4.9</u>	<u>2.8</u>	-7.3
8 生活	8	3	4	27	7	49	11	6	11	15	40	17	17	37
	0.6	0.4	0.4	0.9	<u>3.0</u>	1.5	<u>2.4</u>	<u>2.0</u>	0.8	1.0	1.7	1.2	<u>2.4</u>	-3.4
9 その他	6	2	5	13	4	30	4	1	6	7	18	11	15	26
	1.3	0.6	<u>2.4</u>	0.0	<u>2.3</u>	1.8	0.5	-0.5	0.5	0.1	0.0	1.5	<u>4.2</u>	-1.2
10 なし	13	8	7	66	2	87	16	4	20	23	74	20	22	286
	-2.7	-0.3	-1.8	-2.5	-2.9	-7.2	-1.2	-2.3	-2.5	-3.8	-5.2	-5.0	-2.9	<u>9.7</u>

【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】と【（問16）中学校卒業から現在までに利用した施設・相談した人】との関連について、有意な差が生じている項目は高い比率から順に示せば以下のとおりである。

【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】→【（問16）中学校卒業から現在までに利用した施設・相談した人】

- 「1. 進学」 → 「6. 病院」「12. SC」「11. 教師」「10. 養教」「1. 適指」「3. 児相」
- 「2. 仕事」 → 「4. 職安」「5. 保健」「8. サポステ」
- 「3. 勉強」 → 「1. 適指」「10. 養教」「12. SC」「13. その他」「6. 病院」「5. 保健」「11. 教師」
- 「4. 技能」 → 「8. サポステ」「4. 職安」「6. 病院」「7. FS」「12. SC」「10. 養教」「5. 保健」
- 「5. 表現」 → 「6. 病院」「12. SC」「10. 養教」「11. 教師」「5. 保健」「9. 民間」「8. サポステ」「13. その他」「1. 適指」

「6. 居場所」 → 「5. 保健」「6. 病院」「7. FS」「3. 児相」「8. 塾<sup>ス</sup>」「11. 教師」  
「7. 悩み」 → 「6. 病院」「12. SC」「11. 教師」「9. 民間」「10. 養教」「13 その他」  
「5. 保健」「8. 塾<sup>ス</sup>」  
「8. 生活」 → 「5. 保健」「7. FS」「13. その他」「8. 塾<sup>ス</sup>」  
「9. その他」 → 「13. その他」「3. 児相」「5. 保健」  
「10. なし」 → 「14. なし」  
といった相関が見られる。

中学校3年生時の支援のニーズは、「2. 仕事」「8. 生活」「9. その他」「10. なし」を除いた項目においては多くの相関関係を示しており、様々な機関が複数の支援ニーズに対応していることがうかがえる。

なお、【(問6) 中学校3年生時に利用した施設・相談した人】と【(問16) 中学校を卒業してから現在までに利用した施設・相談した人】をみると、強い相関が見られ、中学校3年生時に利用した施設・相談した人を、そのまま利用するという傾向がはっきりと見て取れる(P.123 参照)。つまり、悩みに応じて相談する施設や人を選択するという面もあるが、その一方で、一度つながった施設や人に対して、自分の抱える問題や悩みを相談する傾向を示唆している。

## 7 中学校卒業後の支援に対するニーズとの関連 (問17)

■ 【(問7) 中学校3年生時の支援のニーズ】と【(問17) 中学卒業後の支援のニーズ】とのクロス集計 (上段…観測度数、下段…標準化残差)

※ 設問及び選択肢についてはP.18、(問17はP.33)を参照する。

問7	中学校卒業後の支援ニーズ (問17)									
	1 進学	2 仕事	3 勉強	4 技能	5 表現	6 居場所	7 悩み	8 生活	9. その他	10 なし
1 進学	175.0	160.0	144.0	181.0	144.0	132.0	168.0	63.0	12.0	43.0
	<u>15.6</u>	<u>8.2</u>	<u>12.3</u>	<u>8.1</u>	<u>6.1</u>	<u>6.1</u>	<u>9.0</u>	<u>6.4</u>	0.8	-10.3
2 仕事	76.0	135.0	61.0	124.0	74.0	73.0	72.0	39.0	7.0	18.0
	<u>7.9</u>	<u>15.0</u>	<u>5.7</u>	<u>10.8</u>	<u>4.2</u>	<u>5.1</u>	<u>3.7</u>	<u>6.2</u>	1.0	-7.5
3 勉強	157.0	171.0	171.0	197.0	170.0	151.0	184.0	70.0	12.0	52.0
	<u>11.5</u>	<u>8.1</u>	<u>15.0</u>	<u>8.4</u>	<u>8.0</u>	<u>7.3</u>	<u>9.5</u>	<u>7.0</u>	0.5	-10.4
4 技能	116.0	182.0	105.0	241.0	157.0	127.0	132.0	69.0	12.0	35.0
	<u>7.6</u>	<u>12.3</u>	<u>7.0</u>	<u>17.2</u>	<u>8.9</u>	<u>6.3</u>	<u>5.2</u>	<u>8.3</u>	1.1	-10.5
5 表現	162.0	206.0	144.0	241.0	313.0	210.0	253.0	77.0	14.0	61.0
	<u>8.6</u>	<u>8.4</u>	<u>7.5</u>	<u>9.0</u>	<u>21.5</u>	<u>11.0</u>	<u>13.7</u>	<u>6.1</u>	0.2	-12.7
6 居場所	128.0	163.0	130.0	189.0	184.0	238.0	188.0	57.0	12.0	49.0
	<u>7.4</u>	<u>7.3</u>	<u>9.0</u>	<u>7.6</u>	<u>10.1</u>	<u>19.3</u>	<u>10.3</u>	<u>4.5</u>	0.5	-10.6
7 悩み	164.0	207.0	155.0	233.0	243.0	211.0	311.0	70.0	15.0	67.0
	<u>8.3</u>	<u>7.7</u>	<u>8.5</u>	<u>7.3</u>	<u>12.1</u>	<u>10.5</u>	<u>19.9</u>	<u>4.4</u>	0.3	-12.7
8 生活	55.0	73.0	51.0	85.0	75.0	66.0	65.0	63.0	5.0	20.0
	<u>5.8</u>	<u>6.6</u>	<u>5.6</u>	<u>7.1</u>	<u>7.0</u>	<u>6.2</u>	<u>4.8</u>	<u>15.3</u>	0.6	-5.5
9 その他	23.0	24.0	17.0	27.0	17.0	20.0	19.0	4.0	23.0	20.0
	1.9	0.4	0.6	0.1	-1.4	0.0	-1.0	-1.3	<u>14.6</u>	-2.0
10 なし	26.0	42.0	26.0	58.0	35.0	36.0	34.0	12.0	8.0	351.0
	-10.2	-11.9	-9.4	-12.6	-12.8	-11.2	-13.1	-6.4	-1.9	<u>20.1</u>

【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】と【（問 17）中学校卒業後の支援のニーズ】との関連については、「その他」と「なし」を除いた、全ての項目に強い相関があり、とりわけ同一の支援ニーズについては、「9.その他」と「10.なし」を含めて、全ての項目に相互に非常に強い相関がある。

このことは、中学校 3 年生時の支援ニーズが卒業後もそのまま続いていることを示唆している。

## 8 不登校によるマイナスの影響（問 31）との関連

■【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】と【（問 31）不登校によるマイナスの影響】とのクロス集計（標準化残差）

※設問及び選択肢については P. 18 を参照する。

問 7	不登校によるマイナスの影響（問 31）			P 値
	1. 感じている	2. 感じていない	3. どちらともいえない	
1. 進学	<u>3.2</u>	-3.0	0.3	<u>0.003</u>
2. 仕事	<u>2.4</u>	-2.4	0.4	<u>0.02</u>
3. 勉強	<u>2.2</u>	-3.9	2.1	<u>0.0</u>
4. 技能	<u>3.6</u>	-2.4	-0.7	<u>0.001</u>
5. 表現	<u>3.2</u>	-4.9	2.2	<u>0.0</u>
6. 居場所	1.0	-2.7	1.9	0.02
7. 悩み	<u>2.6</u>	-3.9	1.8	<u>0.0</u>
8. 生活	1.8	-2.6	1.0	0.03
9. その他	0.3	0.1	-0.4	0.91
10. なし	-3.6	<u>6.2</u>	-3.2	<u>0.0</u>

【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】と【（問 31）不登校による不登校によるマイナスの影響】との関連について、不登校による不登校によるマイナスの影響について「1. 感じている」を選択した者は、中学 3 年生時の支援のニーズは、「1. 進学」「2. 仕事」「3. 勉強」「4. 技能」「5. 表現」「7. 悩み」の項目について有意な差が生じている。また、不登校による不登校によるマイナスの影響について「2. 感じていない」と回答した者は、中学 3 年生時の支援は求めている傾向にある。

中学校 3 年生時に、支援ニーズがあった回答者は、不登校であったことがマイナスに影響していると感じている傾向がある。

## 9 今後の支援に対するニーズ（問 34）との関連

■【（問 7）中学校 3 年生時の支援のニーズ】と【（問 34）今後の支援に対するニーズ】とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については P. 18、（問 34 は P. 48）を参照する。

問7	今後の支援に対するニーズ（問34）									
	1 進学	2 仕事	3 勉強	4 技能	5 表現	6 居場所	7 悩み	8 生活	9 その他	10 なし
1 進学	91	211	85	202	127	116	154	53	15	48
	<u>8.8</u>	<u>8.1</u>	<u>7.3</u>	<u>6.2</u>	<u>4.4</u>	<u>3.0</u>	<u>6.8</u>	<u>3.7</u>	1.9	-8.2
2 仕事	46	118	31	110	63	68	77	35	7	24
	<u>5.9</u>	<u>7.3</u>	<u>2.0</u>	<u>5.5</u>	<u>2.8</u>	<u>3.7</u>	<u>4.4</u>	<u>4.7</u>	1.0	-5.4
3 勉強	82	231	103	237	155	140	179	64	14	52
	<u>6.0</u>	<u>8.2</u>	<u>9.4</u>	<u>8.2</u>	<u>6.6</u>	<u>4.7</u>	<u>8.3</u>	<u>5.0</u>	1.1	-8.9
4 技能	70	208	68	242	141	130	138	66	10	43
	<u>5.5</u>	<u>8.8</u>	<u>4.8</u>	<u>12.4</u>	<u>7.2</u>	<u>5.7</u>	<u>5.5</u>	<u>6.9</u>	0.3	-8.2
5 表現	84	282	87	305	279	214	245	94	14	50
	<u>4.0</u>	<u>8.9</u>	<u>4.1</u>	<u>10.5</u>	<u>18.3</u>	<u>10.3</u>	<u>12.2</u>	<u>8.4</u>	0.1	-12.2
6 居場所	81	215	85	226	172	225	197	70	13	64
	<u>5.8</u>	<u>6.3</u>	<u>6.2</u>	<u>6.9</u>	<u>8.9</u>	<u>16.0</u>	<u>10.6</u>	<u>6.2</u>	0.7	-7.4
7 悩み	89	279	95	292	224	212	306	74	17	68
	<u>4.4</u>	<u>7.6</u>	<u>5.0</u>	<u>8.1</u>	<u>10.7</u>	<u>9.4</u>	<u>18.7</u>	<u>4.4</u>	0.9	-10.7
8 生活	26	81	33	92	63	63	58	53	4	23
	<u>2.3</u>	<u>4.0</u>	<u>4.0</u>	<u>5.5</u>	<u>5.0</u>	<u>5.0</u>	<u>3.2</u>	<u>11.6</u>	0.0	-4.1
9 その他	15	42	14	39	18	23	29	11	15	18
	1.8	<u>2.1</u>	1.3	1.1	-0.9	0.5	1.4	1.2	<u>8.9</u>	-1.7
10 なし	22	98	25	94	43	52	40	13	9	300
	-6.6	-12.1	-6.3	-13.3	-11.2	-10.1	-12.8	-6.6	-1.7	<u>16.8</u>

【（問7）中学校3年生時の支援のニーズ】と【（問34）今後の支援に対するニーズ】との関連については、「その他」と「なし」を除いた全ての項目に強い相関があり、とりわけ同一の支援ニーズについては、全ての項目に相互に非常に強い相関があった。

全体として、中学校3年生時に支援ニーズがあったと回答した者は、今後も同様の支援を求める傾向が高く、逆に、支援を求めていなかった者は、今後も支援を求めない傾向がある。人間関係こうしたことも合わせて考えれば、なるべく早い時期から、求められている支援を把握し、十分な支援を提供する必要があることを示唆している。

## 第 11 章 不登校に対する後悔の有無と他の項目との関連

### 1 中学校 3 年生時の学校以外の方法による学習ニーズ（問 9）との関連

■ 【（問 9）中学校 3 年生時に学校以外であれば勉強を続けたかったか】と【（問 13）不登校に対する後悔の有無】とのクロス集計（1 段目…観測数、2 段目…割合（%）、3 段目…標準化残差）

問 9	不登校で学校に行かなかったことをどう思うか（問 13）				合計
	1. 行けばよかった	2. しかたがなかった	3. 行かなくてよかった	4. 何とも思わない	
1. 思っていた	235	247	93	78	653
	36.0%	37.8%	14.2%	11.9%	42.9%
	-2.3	<u>4.4</u>	<u>2.9</u>	-4.9	
2. 思っていなかった	363	236	82	188	869
	41.8%	27.2%	9.4%	21.6%	57.1%
	<u>2.3</u>	-4.4	-2.9	<u>4.9</u>	
合計	598	483	175	266	1522

【（問 13）不登校に対する後悔の有無】という質問に

「1. 行けばよかった」と「4. 何とも思わない」と回答した者は、【（問 9）学校以外であれば勉強を続けたかったか】という質問には「2. 思っていなかった」と回答した者の割合が有意に高い。また、【（問 13）不登校に対する後悔の有無】の質問に「2. しかたがなかった」と「3. 行かなくてよかった」と回答した者は、【（問 9）学校以外であれば勉強を続けたかった】という質問には「1. 思っていた」と回答した者の割合が有意に高い。

中学 3 年生時に、学校以外であれば勉強を続けたいと思っていた学習ニーズの高い回答者の中には、学校に行けなかったことを「しかたがなかった」と思っている不本意な不登校傾向にある者と、学校には「行かなくてよかった」と思っているが勉強は続けたいと思っていた者が多いことが分かる。一方で、学校以外でも勉強を続けたいと思っていなかった学習ニーズの低い回答者の中には、学校に行かなかったことを「何とも思わない」と回答する学校離れ傾向の者と、「行けばよかった」と後悔する傾向の者が多いことが分かる。

### 2 中学校卒業時と比べて現在の自分が成長したところとの関連（問 27）

■ 【（問 13）不登校に対する後悔の有無】と【（問 27）現在の自分が成長したところ】とのクロス集計（上段…観測数、下段…標準化残差）

問 27	不登校に対する後悔の有無（問 13）				P 値
	1. 行けばよかった	2. しかたがなかった	3. 行かなくてよかった	4. 何とも思わない	
1. 身のまわりのことが自分でできること	295	218	83	114	
	1.9	-0.8	-0.1	-1.3	0.26
2. 身体が健康になったこと	137	150	46	55	
	-1.7	<u>3.4</u>	0.1	-1.9	<u>0.005</u>

3. 生活のリズムがつくれること	266	171	62	87	
	<u>4.0</u>	-1.7	-1.1	-2.1	<u>0.001</u>
4. 自分で働いて収入を得ようとする事	315	202	85	130	
	<u>3.1</u>	-3.4	-0.2	0.3	<u>0.004</u>
5. 人とうまくつきあえること	280	216	98	116	
	0.3	-1.1	<u>2.3</u>	-1.0	0.1
6. 人の痛みがわかるようになったり、人に対して優しくなったこと	309	256	92	90	
	1.8	<u>2.0</u>	0.6	-5.4	<u>0.0</u>
7. 自分に自信が持てること	187	177	81	77	
	-1.8	1.3	<u>3.3</u>	-2.0	<u>0.001</u>
8. 家族との関係が改善されたこと	163	120	50	55	
	1.4	-0.4	0.8	-1.9	0.18
9. 将来の希望が持てること	194	171	66	66	
	0.0	1.5	1.3	-2.9	0.02
10. かつしたり、いらいらしたりしなくなったこと	126	83	37	41	
	1.9	-1.2	0.6	-1.5	0.15
11. いつまでもくよくよ悩まなくなったこと	161	134	44	70	
	0.2	0.5	-0.7	-0.2	0.87
12. 自分の気持ちをはっきり表現できること	170	161	74	75	
	-2.0	1.0	<u>3.0</u>	-1.2	<u>0.007</u>
13. 孤独に耐えられること	147	126	52	64	
	-0.6	0.3	1.1	-0.6	0.65
14. 学力が身に付いていること	151	143	68	62	
	-1.7	1.0	<u>3.2</u>	-1.8	<u>0.003</u>
15. その他	32	35	15	16	
	-1.3	0.9	1.1	-0.3	0.43
16. 成長したとは思えない	50	22	6	31	
	1.5	-2.7	-2.1	<u>3.2</u>	<u>0.0</u>

【(問13)不登校に対する後悔の有無】の質問に「1.行けばよかった」と回答した人は、【(問27)現在の自分が成長したところ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は、高い比率から順に「3. 生活のリズムがつくれること」「4. 自分で働いて収入を得ようとする事」であり、生活面の自立や自己管理について有意な差が生じている。

【(問13)不登校に対する後悔の有無】の質問に「2.しかたがなかった」と回答した人は、【(問27)現在の自分が成長したところ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に、「2. 身体が健康になったこと」「6. 人の痛みがわかるようになったり、人に対して優しくなったこと」であり、健康面、心理面の改善について有意な差が生じている。

【(問 13)不登校に対する後悔の有無】の質問に「3.行かなくてよかった」と回答した人は、【(問 27)現在の自分が成長したところ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は高い比率から順に、「7.自分に自信が持てること」「14.学力が身に付いていること」「12.自分の気持ちをはっきり表現できること」「5.人とうまくつきあえること」であり、自己表現や能力向上について有意な差が生じている。

【(問 13)不登校に対する後悔の有無】の質問に「4.何とも思わない」と回答した人は、【(問 27)現在の自分が成長したところ】との関連について、有意な差が生じている選択項目は「16.成長したとは思えない」である。

### 3 不登校によるマイナスの影響（問 31）との関連

■ 【(問 13) 不登校に対する後悔の有無】と【(問 31) 不登校によるマイナスの影響】とのクロス集計（1 段目…観測数、2 段目…割合(%)、3 段目…標準化残差）

問 13	不登校による現在へのマイナス影響（問 31）			
	1. 感じている	2. 感じていない	3. どちらともいえない	合計
1. 行けばよかった	217	176	205	598
	36.3%	29.4%	34.3%	39.0%
	<u>9.0</u>	-7.4	-0.5	
2. しかたがなかった	111	178	198	487
	22.8%	36.6%	40.7%	31.7%
	-0.7	-2.4	<u>3.1</u>	
3. 行かなくてよかった	13	120	48	181
	7.2%	66.3%	26.5%	11.8%
	-5.6	<u>7.4</u>	-2.6	
4. 何とも思わない	27	155	87	269
	10.0%	57.6%	32.3%	17.5%
	-5.9	<u>6.1</u>	-1.0	
合計	368	629	538	1535

【(問 13)不登校に対する後悔の有無】の質問に「1.行けばよかった」と回答した人は、【(問 31) 不登校によるマイナスの影響】を、「1. 感じている」と回答している割合が有意に高い。一方、【(問 13)不登校に対する後悔の有無】の質問に「3.行かなくてよかった」「4.何とも思わない」と回答した人は、【(問 31)不登校によるマイナスの影響】を「2.感じていない」と回答している割合が有意に高い。

また、【(問 13)不登校に対する後悔の有無】の質問に「2.しかたがなかった」と回答した人は、【(問 31)不登校によるマイナスの影響】を「3.どちらともいえない」と回答した人の割合が有意に高い。

## 第12章 中学校卒業後の施設の利用状況・相談した人と他項目との関連

### 1 中学校卒業後の支援に対するニーズ（問17）との関連

■【（問16）中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】と【（問17）中学校卒業後の支援のニーズ】のクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 30 を参照する。

問16	中学校卒業後の支援のニーズ（問17）									
	1. 進学	2. 仕事	3. 勉強	4. 技能	5. 表現	6. 居場所	7. 悩み	8. 生活	9. その他	10. なし
1. 適指	25	25	24	30	27	23	31	8	2	13
	<u>3.3</u>	1.5	<u>3.5</u>	1.8	<u>2.0</u>	1.5	<u>3.0</u>	0.7	0.1	-3
2. 相談	8	10	6	7	8	7	9	3	2	12
	1.1	1	0.4	-0.9	0.1	0	0.4	0.3	1.4	0.8
3. 見相	10	14	13	17	10	18	10	4	2	6
	1.0	1.4	<u>2.7</u>	1.7	-0.1	<u>3.4</u>	-0.2	0.4	1.0	-2.5
4. 職安	50	126	39	124	85	79	80	25	13	50
	-0.1	<u>8.8</u>	-1.2	<u>6.1</u>	<u>2.4</u>	<u>2.7</u>	1.3	0.5	<u>2.6</u>	-5.6
5. 保健	12	16	13	15	14	17	14	6	3	2
	<u>3.0</u>	<u>3.5</u>	<u>3.9</u>	<u>2.3</u>	<u>2.6</u>	<u>4.4</u>	<u>2.5</u>	<u>2.3</u>	<u>2.6</u>	-3.2
6. 病院	126	152	110	187	177	156	193	59	22	92
	<u>4.9</u>	<u>3.4</u>	<u>3.9</u>	<u>4.5</u>	<u>6.4</u>	<u>5.6</u>	<u>7.9</u>	<u>3.4</u>	<u>3.3</u>	-8
7. FS	17	24	19	28	28	24	27	8	3	10
	1.4	<u>2.0</u>	<u>2.5</u>	<u>2.0</u>	<u>3.1</u>	<u>2.5</u>	<u>2.7</u>	1.0	1.0	-3.3
8. 林`ｽﾀ	9	16	9	22	20	13	16	7	3	4
	1.3	<u>3.2</u>	1.7	<u>4.7</u>	<u>4.8</u>	<u>2.3</u>	<u>3.0</u>	<u>2.7</u>	<u>2.5</u>	-2.6
9. 民間	29	18	30	36	37	33	54	12	6	22
	<u>2.5</u>	-2.1	<u>3.3</u>	0.9	<u>2.3</u>	<u>2.1</u>	<u>6.1</u>	1.1	<u>2.1</u>	-2.7
10. 養教	34	51	34	55	54	46	62	21	4	27
	1.7	<u>2.9</u>	<u>2.3</u>	<u>2.2</u>	<u>3.5</u>	<u>2.7</u>	<u>4.9</u>	<u>2.8</u>	0.2	-3.8
11. 教師	84	109	78	135	121	109	125	41	10	91
	<u>2.0</u>	1.6	<u>2.1</u>	<u>2.4</u>	<u>3.1</u>	<u>3.0</u>	<u>3.3</u>	1.9	0.1	-4.3
12. SC	40	46	44	60	67	52	79	23	4	22
	<u>2.4</u>	1.2	<u>4.0</u>	<u>2.3</u>	<u>5.3</u>	<u>3.2</u>	<u>7.3</u>	<u>3.0</u>	0.0	-5.3
13. その他	27	36	24	45	44	34	44	16	10	31
	1.1	1.2	0.9	1.7	<u>2.9</u>	1.4	<u>2.7</u>	<u>2.0</u>	<u>4.2</u>	-1.7
14. なし	84	114	72	137	110	98	96	35	10	314
	-5.0	-6.2	-5.3	-7.0	-6.8	-6.4	-8.9	-3.7	-2.1	<u>10.9</u>

【(問16) 中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】と【(問17) 中学校卒業後の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている項目は高い比率から順に示せば次のとおりである。

【(問16) 中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】→【(問17) 中学校卒業後の支援のニーズ】

- 「1. 適指」 → 「3. 勉強」「1. 進学」「7. 悩み」「5. 表現」
- 「3. 児相」 → 「6. 居場所」「3. 勉強」
- 「4. 職安」 → 「2. 仕事」「4. 技能」「6. 居場所」「9. その他」「5. 表現」
- 「5. 保健」 → 「6. 居場所」「3. 勉強」「2. 仕事」「1. 進学」「5. 表現」「9. その他」  
「7. 悩み」「4. 技能」「8. 生活」
- 「6. 病院」 → 「7. 悩み」「5. 表現」「6. 居場所」「1. 進学」「4. 技能」「3. 勉強」  
「2. 仕事」「8. 生活」「9. その他」
- 「7. FS」 → 「5. 表現」「7. 悩み」「3. 勉強」「6. 居場所」「2. 仕事」「4. 技能」
- 「8. ｽﾎﾟｰｽﾞ」 → 「5. 表現」「4. 技能」「2. 仕事」「7. 悩み」「8. 生活」「9. その他」  
「6. 居場所」
- 「9. 民間」 → 「7. 悩み」「3. 勉強」「1. 進学」「5. 表現」「6. 居場所」「9. その他」
- 「10. 養教」 → 「7. 悩み」「5. 表現」「2. 仕事」「8. 生活」「6. 居場所」「3. 勉強」  
「4. 技能」
- 「11. 教師」 → 「7. 悩み」「5. 表現」「6. 居場所」「4. 技能」「3. 勉強」「1. 進学」
- 「12. SC」 → 「7. 悩み」「5. 表現」「3. 勉強」「6. 居場所」「8. 生活」「1. 進学」  
「4. 技能」
- 「13. その他」 → 「9. その他」「5. 表現」「7. 悩み」「8. 生活」
- 「14. なし」 → 「10. なし」

といった相関が見られる。

中学校卒業後の支援のニーズは、心の悩み、人間関係構築のための表現力、仲間を求めている居場所をはじめとして多岐にわたっているが、それぞれの支援ニーズに応じた施設・相談機関を選択しており、また、施設・相談機関は複数の支援のニーズにも対応していることがうかがえる。

## 2 支えとなるアドバイスをしてくれた人との関連 (問28)

- 【(問16) 中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】と【(問28) 支えとなるアドバイスをしてくれた人】のクロス集計 (上段…観測度数、下段…標準化残差)  
※設問及び選択肢については、P. 30 を参照する。

問16	支えとなるアドバイスをしてくれた人 (問28)									
	1. 母親	2. 父親	3. きょうだい	4. 祖父母	5. 先輩・友人	6. 仕事の上 司・同僚	7. 妻・夫	8. 子ども	9. その他	10. 特にな い
1. 適指	37	25	14	11	32	4	0	0	21	9
	-0.3	1.7	-0.4	1	0.6	-1.7	-1.3	-1	1.7	-1.3
2. 相談	14	6	7	6	8	2	0	0	13	6
	-0.8	-0.8	0.3	1.5	-1.7	-0.9	-0.9	-0.6	3.0	0.3

3. 児相	18	9	7	8	16	1	0	1	11	5
	-0.3	-0.1	-0.2	<u>2.1</u>	0.5	-1.7	-0.9	0.9	1.4	-0.6
4. 職安	132	58	61	33	113	55	8	3	45	46
	-0.7	-1.5	1	0.7	1	<u>5.2</u>	0.9	-0.1	-1.7	-0.1
5. 保健	12	10	5	4	11	6	0	0	4	4
	-0.7	1.5	-0.2	0.7	0.2	1.8	-0.8	-0.6	-0.7	-0.4
6. 病院	265	136	93	60	205	53	10	7	138	59
	<u>2.5</u>	2	-0.6	1.3	2	-0.2	-0.3	0.7	<u>5.5</u>	-3.5
7. FS	29	17	12	5	32	9	0	0	20	11
	-0.8	0.4	-0.3	-0.8	<u>2.0</u>	0.8	-1.2	-0.9	<u>2.3</u>	0
8. 林 <sup>3</sup> 行	14	9	9	3	8	4	0	0	11	7
	-0.3	0.7	1.4	-0.1	-1.4	0.4	-0.8	-0.6	<u>2.4</u>	1
9. 民間	56	29	22	12	50	13	0	0	36	13
	0.6	0.7	0.2	0.2	<u>2.0</u>	0.4	-1.6	-1.2	<u>3.8</u>	-1.4
10. 養教	82	46	37	27	70	13	2	1	45	13
	1.7	<u>2.0</u>	1.7	<u>3.2</u>	<u>2.5</u>	-0.9	-0.7	-0.6	<u>3.5</u>	-2.8
11. 教師	227	124	95	60	191	36	4	6	126	31
	<u>4.5</u>	<u>4.0</u>	<u>2.7</u>	<u>3.5</u>	<u>5.4</u>	-1.2	-1.8	0.9	<u>7.3</u>	-5.4
12. SC	89	51	32	32	80	7	3	1	48	17
	1.6	<u>2.3</u>	0	<u>4.0</u>	<u>3.3</u>	-2.9	-0.3	-0.7	<u>3.4</u>	-2.3
13. その他	67	37	31	19	59	13	0	1	50	11
	1.5	1.7	1.7	1.9	<u>2.6</u>	-0.1	-1.7	-0.3	<u>6.3</u>	-2.4
14. なし	286	135	116	49	212	70	21	9	66	145
	-3.7	-2.8	-1.6	-3.3	-3.8	-0.2	<u>2.4</u>	0.8	-8	<u>4.9</u>

【（問 26）支えとなるアドバイスをしてくれた人】という質問に「1. 母親」「2. 父親」「4. 祖父母」「5. 先輩・友人」を回答した人は、「6. 病院」のほか、「11. 教師」「10. 養教」「12. SC」などの学校関係との関連が有意に高い。

### 3 将来やってみたい仕事との有無との関連（問 32）

- 【（問 16）中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】と【（問 32）将来やってみたい仕事の有無】のクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）  
※設問及び選択肢については、P. 30 を参照する。

問 16	将来やってみたい仕事との有無との関連（問 32）			
	1. ある	2. ない	3. すでにやりたい仕事についている	P 値
1. 適指	52	15	3	
	1.4	-0.8	-1.2	0.31
2. 相談	20	9	0	
	0.3	0.7	-1.6	0.26
3. 児相	23	13	1	
	-0.6	1.4	-1.2	0.25
4. 職安	171	61	22	
	0.3	-0.6	0.5	0.79
5. 保健	19	7	2	
	0.1	-0.1	-0.2	0.01
6. 病院	320	113	22	
	<u>2.0</u>	-0.4	-2.9	<u>1.0</u>
7. F S	46	13	4	
	1.1	-0.9	-0.5	0.55
8. 林 <sup>o</sup> 行	19	10	0	
	-0.1	1.1	-1.6	0.19
9. 民間	77	17	3	
	<u>2.8</u>	-1.9	-1.8	0.02
10. 養教	98	28	6	
	1.9	-1.2	-1.5	0.11
11. 教師	253	75	23	
	<u>2.5</u>	-2.0	-1.1	0.05
12. S C	108	32	5	
	<u>2.1</u>	-1.0	-2.1	0.04
13. その他	81	22	9	
	1.3	-1.5	0.0	0.33
14. なし	371	169	63	
	-3.4	1.8	<u>2.9</u>	<u>0.01</u>

【（問 16）中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】という質問で、「6. 病院」「9. 民間」「11. 教師」「12. SC」と回答した者が、【（問 32）将来やってみたい仕事の有無】が「1. ある」と選択した項目が有意に高い。

#### 4 自分の将来の夢や希望との関連（問 33）

■【（問 16）中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】と【（問 33）自分の将来の夢や希望】のクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）  
※設問及び選択肢については、P. 30 を参照する。

問 16	自分の将来の夢や希望（問 33）			
	1. ある	2. ぼんやりとある	3. ない	P 値
1. 適指	35	29	7	
	0.9	1.0	-2.3	0.06
2. 相談	12	11	6	
	-0.3	0.3	0	0.94
3. 児相	16	12	9	
	-0.1	-0.3	0.5	0.87
4. 職安	110	92	53	
	-0.3	0.4	-0.1	0.93
5. 保健	10	8	10	
	-0.9	-0.7	1.9	0.15
6. 病院	200	155	100	
	0	-0.5	0.7	0.77
7. FS	25	23	15	
	-0.7	0.2	0.6	0.75
8. 林'ｽﾀ	9	9	11	
	-1.4	-0.5	<u>2.3</u>	0.07
9. け民	44	40	14	
	0.2	1.2	-1.7	0.2
10. 養教	65	43	24	
	1.3	-0.6	-0.8	0.43
11. 教師	166	124	61	
	1.4	0.1	-1.9	0.15
12. SC	70	47	28	
	1.1	-0.7	-0.5	0.55
13. その他	55	37	20	
	1.1	-0.5	-0.8	0.49
14. なし	263	210	132	
	-0.3	-0.2	0.7	0.79

【（問16）中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】という質問に「8. 塾・ｽﾀｼﾞ」と回答した人は、【（問33）自分の将来の夢や希望】が「3. ない」との回答が有意差が見受けられるが、その数値も高くないことから、本項目間において、有意な関連は認められない。

## 5 今後の支援に対するニーズとの関連（問34）

■【（問16）中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】と【（問34）今後の支援に対するニーズ】のクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 30（問34はP. 48）を参照する。

問16	今後の支援に対するニーズとの関連（問34）									
	1. 進学	2. 仕事	3. 勉強	4. 技能	5. 表現	6. 居場所	7. 悩み	8. 生活	9. その他	10. なし
1. 適指	15	36	18	36	28	23	33	9	4	12
	<u>2.3</u>	1.8	<u>3.3</u>	1.5	<u>2.6</u>	1.2	<u>3.3</u>	1.0	1.4	-2.7
2. 相談	4	14	6	13	6	6	10	3	2	8
	0.2	0.8	1.3	0.2	-0.7	-0.7	0.6	0.2	1.2	-0.5
3. 児相	9	22	8	20	12	16	15	6	3	7
	<u>2.2</u>	<u>2.3</u>	1.6	1.4	0.8	<u>2.3</u>	1.5	1.4	1.8	-1.7
4. 職安	36	148	29	137	72	80	87	27	10	54
	1.0	<u>6.3</u>	-0.6	<u>4.0</u>	0.9	<u>2.0</u>	<u>2.0</u>	0.8	1.0	-3.8
5. 保健	6	15	4	14	13	15	13	5	3	4
	1.5	1.4	0.2	0.8	<u>2.4</u>	<u>3.2</u>	<u>2.0</u>	1.5	<u>2.4</u>	-2.0
6. 病院	61	226	68	238	161	164	201	62	26	86
	0.8	<u>4.5</u>	1.7	<u>4.8</u>	<u>5.2</u>	<u>5.4</u>	<u>8.3</u>	<u>3.6</u>	<u>4.0</u>	-7.0
7. F S	10	29	16	35	25	20	27	12	1	15
	0.9	0.9	<u>3.1</u>	<u>2.2</u>	<u>2.5</u>	1.0	<u>2.5</u>	<u>2.7</u>	-0.7	-1.3
8. 塾・ｽﾀｼﾞ	8	17	10	21	19	17	17	11	2	4
	<u>2.4</u>	1.8	<u>3.4</u>	<u>3.0</u>	<u>4.6</u>	<u>3.8</u>	<u>3.3</u>	<u>5.1</u>	1.2	-2.2
9. 民間	20	44	16	46	40	37	50	11	6	21
	<u>2.5</u>	0.9	1.1	0.9	<u>3.4</u>	<u>2.6</u>	<u>5.0</u>	0.6	1.9	-2.2
10. 養教	20	69	18	67	50	51	63	22	5	22
	1.0	<u>2.8</u>	0.4	<u>2.0</u>	<u>3.2</u>	<u>3.3</u>	<u>4.9</u>	<u>3.0</u>	0.6	-3.8
11. 教師	42	174	59	180	113	117	132	46	12	69
	-0.2	<u>3.9</u>	<u>2.7</u>	<u>3.7</u>	<u>2.9</u>	<u>3.3</u>	<u>4.0</u>	<u>2.7</u>	0.5	-5.4
12. S C	20	74	28	76	64	56	79	25	7	20
	0.5	<u>2.6</u>	<u>2.5</u>	<u>2.4</u>	<u>5.1</u>	<u>3.4</u>	<u>7.0</u>	<u>3.4</u>	1.3	-4.9
13. その他	15	48	12	55	37	36	46	19	12	27
	0.3	0.4	-0.7	1.3	1.6	1.4	<u>2.8</u>	<u>2.8</u>	<u>5.0</u>	-1.8
14. なし	61	182	56	191	107	112	108	35	9	274
	-2.2	-6.9	-3.2	-7.2	-6.2	-5.7	-7.9	-3.9	-2.8	<u>9.4</u>

【（問16）中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】と【（問34）今後の支援のニーズ】との関連について、有意な差が生じている項目は高い比率から順に示せば以下のとおりである。

【(問 16) 中学校を卒業してから現在までで利用した施設・相談した人】→【(問 34) 今後の支援のニーズ】

- 「1. 適指」 → 「3. 勉強」「7. 悩み」「5. 表現」「1. 進学」
- 「3. 児相」 → 「2. 仕事」「6. 居場所」「1. 進学」
- 「4. 職安」 → 「2. 仕事」「4. 技能」「6. 居場所」「7. 悩み」
- 「5. 保健」 → 「6. 居場所」「5. 表現」「9. その他」「7. 悩み」
- 「6. 病院」 → 「7. 悩み」「6. 居場所」「5. 表現」「4. 技能」「2. 仕事」「9. その他」「8. 生活」
- 「7. FS」 → 「3. 勉強」「8. 生活」「5. 表現」「7. 悩み」「4. 技能」
- 「8. 林〃行」 → 「8. 生活」「5. 表現」「6. 居場所」「3. 勉強」「7. 悩み」「4. 技能」「1. 進学」
- 「9. 民間」 → 「7. 悩み」「5. 表現」「6. 居場所」「1. 進学」
- 「10. 養教」 → 「7. 悩み」「6. 居場所」「5. 表現」「8. 生活」「2. 仕事」「4. 技能」
- 「11. 教師」 → 「7. 悩み」「2. 仕事」「4. 技能」「6. 居場所」「5. 表現」「3. 勉強」「8. 生活」
- 「12. SC」 → 「7. 悩み」「5. 表現」「6. 居場所」「8. 生活」「2. 仕事」「3. 勉強」「4. 技能」
- 「13. その他」 → 「9. その他」「7. 悩み」「8. 生活」
- 「14. なし」 → 「10. なし」

といった相関が見られた。中学校を卒業してから現在までで施設・相談機関を利用した人は、今後の支援に対するニーズも多岐にわたっている。また、施設・相談機関は複数の支援のニーズにも対応していることがうかがえる。その一方で、一度つながった施設や人に対して、自分の抱える問題や悩みを相談する傾向を示唆している。

## 第13章 中学校卒業後の支援に対するニーズと他項目との関連

### 1 支えとなるアドバイスをしてくれた人との関連（問28）

■【（問17）中学卒業後の支援に対するニーズ】と【（問28）支えとなるアドバイスをしてくれた人】とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 33 を参照する。

問17	支えとなるアドバイスをしてくれた人（問28）									
	1. 母親	2. 父親	3. きょうだい	4. 祖父母	5. 先輩・友人	6. 仕事の上司・同僚	7. 妻・夫	8. 子ども	9. その他	10. 特になし
1. 進学	181	91	74	47	139	37	3	3	88	50
	1.3	0.7	0.8	1.9	1.0	0.0	-1.8	-0.6	<u>3.1</u>	-1.4
2. 仕事	242	107	110	54	189	67	10	5	94	57
	1.4	-1.1	<u>2.5</u>	0.6	1.5	<u>3.1</u>	0.1	-0.3	0.3	-3.2
3. 勉強	172	93	70	42	126	28	5	3	85	37
	<u>2.4</u>	<u>2.3</u>	1.3	1.7	1.0	-1.1	-0.7	-0.4	<u>3.8</u>	-2.7
4. 技能	277	140	112	52	225	75	10	7	129	75
	0.3	0.3	0.3	-1.4	1.7	<u>2.7</u>	-0.6	0.2	<u>2.6</u>	-2.6
5. 表現	236	119	99	54	178	42	4	2	115	60
	1.2	0.7	1.2	0.8	0.6	-1.2	-2.2	-1.8	<u>3.5</u>	-2.5
6. 居場所	214	111	88	47	178	44	3	4	101	56
	1.0	1.0	0.8	0.4	<u>2.5</u>	-0.1	-2.3	-0.5	<u>2.7</u>	-2.2
7. 悩み	250	121	109	56	206	50	7	1	125	56
	1.9	0.4	<u>2.1</u>	0.8	<u>3.1</u>	-0.1	-1.1	-2.3	<u>4.4</u>	-3.5
8. 生活	78	46	40	17	54	20	0	0	39	20
	1.0	<u>2.0</u>	<u>2.4</u>	0.3	-0.3	1.2	-1.9	-1.4	<u>2.2</u>	-1.1
9. その他	17	13	7	6	18	3	0	0	14	16
	-2.1	0.4	-0.9	0.4	0.0	-1.0	-1.0	-0.8	1.8	<u>3.2</u>
10. なし	285	143	117	66	195	52	15	10	81	130
	-0.2	-0.2	0.2	0.5	-2.8	-1.7	1.0	1.4	-4.4	<u>4.5</u>

【（問17） 中学を卒業してから現在までの支援のニーズ】のうち、「1. 進学」と回答した者においては、支えとなるアドバイスや励ましをしてくれた人として「9. その他」が有意に高かった。

同様に、

「2. 仕事」と回答した者においては、「6. 仕事の上司・同僚」「3. きょうだい」、

「3. 勉強」と回答した者においては、「9. その他」「1. 母親」「2. 父親」、

「4. 技術」と回答した者においては、「6. 仕事の上司・同僚」「9. その他」、

「5. 表現」と回答した者においては、「9. その他」、

「6. 居場所」と回答した者においては、「9. その他」「5. 先輩・友人」、

「7. 悩み」と回答した者においては、「9. その他」「5. 先輩・友人」「3. きょうだい」、

「8. 生活」と回答した者においては、「3. きょうだい」「9. その他」「2. 父親」が有意に差があった。

学習・生活に関するもの以外、父親や母親のアドバイスは支持されておらず、仕事や悩みや生活習慣に関しては「きょうだい」が支えとなっていることがうかがわれる。就労関係は仕事の「上司・同僚」が、心理面や人間関係においては、「先輩・友人」が支えとなっている傾向が見られる。

## 2 将来やってみたい仕事の有無との関連（問 32）

■【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】と【（問 32）将来やってみたい仕事の有無】とのクロス集計

（上段…観測度数、下段…標準化残差）

※設問及び選択肢については、P. 33 を参照する。

問 17	将来やってみたい仕事の有無（問 32）			P 値
	1. ある	2. ない	3. すでにやりたい仕事についている	
1. 進学	226	73	15	
	<u>2.4</u>	-1.2	-2.3	0.02
2. 仕事	278	129	25	
	-1.0	<u>2.2</u>	-1.9	0.03
3. 勉強	208	65	12	
	<u>2.6</u>	-1.3	-2.5	<u>0.009</u>
4. 技能	345	140	31	
	0.3	0.8	-1.9	0.15
5. 表現	283	124	25	
	-0.4	1.6	-1.9	0.08
6. 居場所	268	101	18	
	1.4	0.1	-2.7	0.03
7. 悩み	294	120	25	
	0.4	0.8	-2.0	0.13
8. 生活	91	41	10	
	-0.6	0.9	-0.4	0.67
9. その他	34	5	3	
	<u>2.0</u>	-2.1	-0.2	0.09
10. なし	348	140	56	
	-1.4	-0.1	<u>2.6</u>	0.03

【（問 32）将来やってみたい仕事の有無】という質問に「1. ある」と回答した者は、【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】は「1. 進学」「3. 勉強」が有意に高くなっている。

【（問 32）将来やってみたい仕事の有無】という質問に「2. ない」と回答した者は、【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】は「2. 仕事」が有意に高くなっており、【（問 32）将来やってみたい仕事の有無】という質問に「3. すでにやりたい仕事についている」と回答した者は、【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】は「なし」が有意に高い。

### 3 自分の将来の夢や希望との関連（問 33）

- 【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】と【（問 33）自分の将来の夢や希望】とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）  
※設問及び選択肢については、P. 33 を参照する。

問 17	自分の将来の夢や希望（問 33）			
	1. ある	2. ぼんやりとある	3. ない	P 値
1. 進学	148	108	58	
	1.3	-0.3	-1.3	0.31
2. 仕事	155	168	109	
	-3.9	1.9	<u>2.5</u>	<u>0.0</u>
3. 勉強	128	102	56	
	0.4	0.2	-0.7	0.79
4. 技能	196	201	119	
	-3.3	<u>2.2</u>	1.3	<u>0.005</u>
5. 表現	162	162	108	
	-3.1	1.2	<u>2.3</u>	<u>0.005</u>
6. 居場所	165	141	81	
	-0.5	0.6	-0.1	0.81
7. 悩み	183	153	103	
	-1.1	-0.1	1.4	0.32
8. 生活	47	58	37	
	-2.7	1.5	1.5	0.03
9. その他	21	10	11	
	0.8	-1.6	0.8	0.29
10. なし	259	178	109	
	<u>2.1</u>	-1.5	-0.8	0.1

【（問 33）将来の夢や希望】という質問に「1. ある」と回答した者は、【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】は「10. なし」が有意に高い。

【（問 33）将来の夢や希望】という質問に「2. ぼんやりとある」と回答した者は、【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】は「4. 技能」が有意に高い。

【（問 33）将来の夢や希望】という質問に「3. ない」と回答した者は、【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】は「2. 仕事」「5. 表現」が有意に高い。

将来の夢や希望について、「ぼんやりとある」と答えた者は、仕事のスキルを得たいと考えており、「ない」と答えた者は、仕事に就くための相談やコミュニケーションなど、具体的な方向性以前のところに課題を感じていると推測できる。

また、有意に高いとまではいえないが、夢や希望の有無と生活習慣の改善に関するニーズとの間に若干の関連が見られ、夢や希望の有無と実際の生活習慣の乱れと関連している可能性がある。

#### 4 今後の支援に対するニーズとの関連（問 34）

■【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】と【（問 34）今後の支援に対するニーズ】とのクロス集計（上段…観測度数、下段…標準化残差）  
※設問及び選択肢については、P. 48 を参照する。

	今後の支援に対するニーズとの関連（問34）									
	1.進学	2.仕事	3.勉強	4.技術	5.表現	6.居場所	7.悩み	8.生活	9.その他	10.なし
1. 進学	119	213	100	196	134	120	143	58	10	34
	<u>15.2</u>	<u>10.7</u>	<u>11.2</u>	<u>7.7</u>	<u>7.0</u>	<u>5.2</u>	<u>7.0</u>	<u>5.7</u>	0.3	-8.8
2. 仕事	96	328	78	296	171	168	185	71	15	36
	<u>7.3</u>	<u>17.5</u>	<u>3.9</u>	<u>12.8</u>	<u>7.1</u>	<u>7.0</u>	<u>7.3</u>	<u>5.5</u>	0.8	-12.1
3. 勉強	91	189	117	179	138	119	147	50	10	24
	<u>10.9</u>	<u>9.5</u>	<u>15.7</u>	<u>7.4</u>	<u>9.0</u>	<u>6.4</u>	<u>9.0</u>	<u>4.8</u>	0.6	-9.3
4. 技能	102	341	102	403	223	203	216	86	16	46
	<u>6.1</u>	<u>14.1</u>	<u>5.7</u>	<u>19.7</u>	<u>10.2</u>	<u>8.0</u>	<u>7.5</u>	<u>6.4</u>	0.3	-13.5
5. 表現	82	260	88	289	302	210	240	91	14	27
	<u>4.8</u>	<u>9.4</u>	<u>5.4</u>	<u>11.7</u>	<u>23.6</u>	<u>12.2</u>	<u>13.9</u>	<u>9.2</u>	0.4	-13.3
6. 居場所	74	227	74	231	200	257	218	75	15	35
	<u>4.5</u>	<u>8.1</u>	<u>4.2</u>	<u>7.6</u>	<u>12.6</u>	<u>20.5</u>	<u>13.4</u>	<u>7.3</u>	1.3	-11.0
7. 悩み	87	266	95	253	242	204	327	83	16	31
	<u>5.5</u>	<u>9.8</u>	<u>6.5</u>	<u>7.3</u>	<u>15.8</u>	<u>11.2</u>	<u>24.5</u>	<u>7.6</u>	1.1	-13.0
8. 生活	38	95	43	96	77	70	81	73	3	13
	<u>5.3</u>	<u>6.4</u>	<u>6.4</u>	<u>6.1</u>	<u>7.6</u>	<u>6.3</u>	<u>7.5</u>	<u>17.4</u>	-0.6	-6.0
9. その他	5	18	5	17	8	12	17	5	22	7
	-0.1	0.2	-0.2	-0.4	-1.2	0.3	1.6	0.5	<u>19.2</u>	-2.1
10. なし	25	85	24	90	29	52	38	12	6	363
	-6.8	-14.8	-7.2	-15.3	-14.0	-11.0	-14.2	-7.3	-3.1	<u>22.4</u>

【（問 17）中学卒業後の支援に対するニーズ】と【（問 34）今後の支援に対するニーズ】との関連については、「その他」と「なし」を除いた、すべての項目に強い相関があり、とりわけ同一の支援ニーズについては、「その他」と「なし」を含めて、全ての項目に相互に非常に強い相関がある。

第 10 章 7 【中学校 3 年生時の支援に対するニーズ】と【中学校卒業後のニーズとの関連】においても、同様の傾向が見られたことを併せて考えると、中学校 3 年生時→現在→今後において必要とする支援はほぼ同一であると考えられる。不登校経験者が成長していく過程において、各段階で支援する機関等が相互に連携し、ニーズを踏まえた支援を継続して行うことが重要である。